

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成15年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/388
Right	

1. 保 存 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	槇石 武美	炭酸ガスレーザー(Panalase 10)による硬組織治療
講 師	近藤 祥弘	歯内療法処置に応用される材品に関する研究
	野呂 明夫	口腔リハビリ器具による表情筋機能療法
	森山 貴史	口臭
助 手	渡部 光弘	歯髄 材品の接触界面に関する臨床的検討
	廣瀬 理子	
	鈴木 道子	歯周組織発生における上皮 間葉相互作用
臨床研修医	大守真由子	
	松本 信哉	
	水戸部明子	

2. 成果の概要

口臭

現在、既存の口臭治療には、問題点が多い。我々は、その問題点を解析し、新しい口臭治療法を開発するために、口臭の病態および既存の口臭治療に対する反応について臨床的評価および分析を行った。対象は、水道橋病院に口臭を主訴に来院した患者128名(男性47名・女性81名, 平均年齢44.8±13.8)。口臭分析器としてHalimeter RH 17を使用した。全患者数で、口臭を自覚している者は、79名/128名(61.7%)であったにもかかわらず、測定器にて社会的許容範囲(300ppb)以下で生理的口臭と診断された者は、99名/128名(77.3%)で、ほとんどの患者が比較的軽度の口臭しか有さないと考えられた。生理的口臭と診断された者のうち、舌苔が原因と思われたものは79名(87.8%)で、軽度の口臭と診断された患者のほとんどが舌清掃により口臭が改善するものと考えられた。

3. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演

講演者	年月日	演 題 名	学会・研究会名	開催地
森山 貴史	2003.6.21	口臭症の臨床	東京歯科大学同窓会静岡支部	静岡市
森山 貴史	2003.10.28	歯周病予防教室	千住保健総合センター	東京
森山 貴史	2004.3.20	口臭なんて怖くない	人材派遣健康保険組合	東京

共用試験等

氏名	年月日	種別	役割	開催地
槇石 武美	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
廣瀬 理子	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	進行係	東京
野呂 明夫	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	ST 責任者	東京
槇石 武美	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	運営委員	東京
森山 貴史	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	ST 責任者	東京
野呂 明夫	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
鈴木 道子	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	進行係	東京

論 文

1. 佐藤貞雄⁽¹⁾, 花島美和⁽²⁾, 榊原功二⁽²⁾, 黄 渡虎⁽³⁾, 槇石武美, 青木 聡⁽⁴⁾, 高階博文⁽³⁾ : さまざまな不快症状を訴える不正咬合患者の診断と治療, 日全身咬合会誌 9(2), 133 ~ 142, 2003. 症例 (1)神歯大・歯・成長発達歯科, (2)東京都,(3)神歯大・歯・成長発達歯科学,(4)水病・総合歯科
2. 吉田 隆⁽¹⁾, 有泉祐吾⁽²⁾, 渡部光弘, 渡邊宇一⁽³⁾, 古澤成博⁽³⁾, 中川寛一⁽³⁾ : 歯科衛生士教育機関における診療補助実習, 日歯保存誌 47(1), 147 ~ 153, 2004. 原著 (1)埼玉県立大・短大部・歯科衛生,(2)静岡県立短大・歯科衛生,(3)保存 I

その他

1. 野呂明夫 : 口はすごい急所「くちびる体操」, 安心 別冊付録 21(4), 9 ~ 13, 2003.
2. 森山貴史, 山田 了⁽¹⁾ : 異なるインプラントの表面性状における実験的に作られたインプラント周囲炎の細菌学的および放射線学的分析(訳), Quintessence Dent Imp 10(6), 856 ~ 865, 2003. (1)保存 II
3. 森山貴史 : 特集 名医による成人病の予防と対策 「歯周病は怖い?怖くない?」, 文藝春秋 81(9), 62 ~ 63, 2003.
4. 野呂明夫 : 81st General Session of the I.A.D.R. in Sweden に出席して パタカラ研究発表の成果と北欧の旅の思い出(その 1), Together 114(8/9), 2 ~ 4, 2003.
5. 野呂明夫 : 81st General Session of the I.A.D.R. in Sweden に出席して パタカラ研究発表の成果と北欧の旅の思い出(その 2), Together 115(10), 2 ~ 4, 2003.
6. 野呂明夫 : くちびる力アップで驚くほど小顔に、口呼吸を鼻呼吸に誘導, 日経ヘルス 7(2), 18 ~ 31, 2004.
7. 森山貴史, 山田 了⁽¹⁾ : 他家骨ブロック移植材を用いた局所的歯槽堤増大術後の 1 回法インプラント埋入: 症例報告 (訳), The International Journal of Periodontics & Restorative Dentistry 12(2), 10 ~ 16, 2004. (1)保存 II

学会抄録

1. Takahashi,J.⁽¹⁾, Noro,A., Hirai,Y.⁽²⁾ : The Growth of Labial-Closure-Strength in youth, J Dent Res 82(Special IssueB), B-166, 2003.(81st General Session of the IADR, Gotenborg, Sweden) (1)保存 II,(2)保存 III
2. Noro,A., Takahashi,J.⁽¹⁾, Hirai,Y.⁽²⁾ : The Growth of Labial-Closure-Strength in Adults, J Dent Res 82(Special IssueB), B-166, 2003.(81st General Session of the IADR, Gotenborg, Sweden) (1)保存 II,(2)保存 III
3. 佐藤貞雄⁽¹⁾, 杉山利子⁽²⁾, 平井義人⁽²⁾, 牟田具城⁽³⁾, 青木 聡⁽³⁾, 槇石武美 : 咬合再構成症例における顎位の決定法に関する考察 特に咬合高径の垂直的コントロールについて , 第 21 回日本顎咬合学会学術大会プログラム抄録集, 181, 2003.(第 21 回日本顎咬合学会学術大会総会, 東京) 脳科学研 (1)神歯大・歯・成長発達歯科, (2)保存 III,(3)水病・総合歯科

4. 青木 聡⁽¹⁾, 槇石武美, 石川達也⁽²⁾, 佐藤貞雄⁽³⁾ : 顎機能障害を有する患者の診断法と治療法の実際 第 2 報
さまざまな症状を持つ患者に対する治療例, 第 21 回日本顎咬合学会学術大会プログラム抄録集, 184, 2003.
(第 21 回日本顎咬合学会学術大会, 東京) 脳科学研 (1)水病・総合歯科,(2)保存 III,(3)神歯大・歯・成長発達歯科
5. 益田賢治⁽¹⁾, 小貫瑞穂⁽¹⁾, 青木 聡⁽¹⁾, 松井みちる⁽¹⁾, 細川壮平⁽¹⁾, 槇石武美 : 右側顎関節に疼痛を訴える多数歯
欠損患者に咬合再構成を試みた一例, 第 21 回日本顎咬合学会学術大会プログラム抄録集, 193, 2003.
(第 21 回日本顎咬合学会学術大会総会, 東京) (1)水病・総合歯科
6. 森山貴史, 渡部光弘, 奥川裕司⁽¹⁾, 廣瀬理子, 槇石武美 : 東京歯科大学水道橋病院口臭外来について 2002
年 3 月から 1 年間の動向 , 歯科学報 103(6), 64, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・総合
歯科
7. 金子 譲⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽²⁾, 谷田部賢一⁽³⁾, 大多和由美⁽⁴⁾, 安達 康⁽⁵⁾, 槇石武美, 青木 聡⁽⁶⁾, 島田 淳⁽⁷⁾, 山 満⁽²⁾,
高野正行⁽²⁾, 長谷部利一⁽³⁾, 辻野啓一郎⁽⁴⁾, 堀田宏巳⁽⁵⁾, 益田賢治⁽⁶⁾, 野呂明夫, 福田謙一⁽⁸⁾, 笠原正貴⁽⁸⁾ :
東京歯科大学水道橋病院における外来患者の満足度調査, 歯科学報 103(6), 65, 2003.(第 275 回東京歯科大学
学会例会, 千葉) (1)歯麻,(2)水病・口外科,(3)水病・矯正科,(4)水病・小児歯科,(5)水病・補綴科,(6)水病・総合歯科,(7)水病・
スポーツ歯科,(8)水病・麻酔科
8. 小貫瑞穂⁽¹⁾, 細川壮平⁽¹⁾, 大迫知子⁽¹⁾, 青木 聡⁽¹⁾, 槇石武美 : 日常の歯科臨床検査としての顎機能検査法に
ついて CADIAX を用いた顎機能検査の術式について , 歯科学報 103(6), 537, 2003.(第 275 回東京歯科大学
学会例会, 千葉) (1)水病・総合歯科
9. 牟田具城⁽¹⁾, 大澤梨恵⁽¹⁾, 竹井久典⁽¹⁾, 青木 聡⁽¹⁾, 槇石武美 : 咬合再構成症例における顎位の決定法に関する
考察 特に咬合高径の垂直的コントロールについて , 歯科学報 103(6), 538, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会
例会, 千葉市) (1)水病・総合歯科
10. 青木 聡⁽¹⁾, 益田賢治⁽¹⁾, 槇石武美, 松久保 隆⁽²⁾ : 水道橋病院総合歯科における総合診断の進め方, 歯科学報
103(6), 554, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉) (1)水病・総合歯科,(2)衛生
11. 槇石武美, 谷田部賢一⁽¹⁾ : 歯科大学付属病院での歯科衛生士学生実習教育の現状報告, 歯科学報 103(10),
843, 2004.(第 276 回東京歯科大学学会総会, 千葉) (1)水病・矯正科

2. 総 合 歯 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	榎石 武美	総合診療の進め方の検討
講 師	青木 聡	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
	牟田 具城	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
助 手	益田 賢治	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
病院助手	細川 壮平	歯牙漂白の経過観察 口腔筋機能訓練の研究
	小貫 瑞穂	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
	竹井 久典	総合歯科の臨床統計
	大迫 美穂	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
臨床研修医	飯田 聡	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討

2. 成果の概要

1) 総合診療の進め方の検討

総合診療を進めるにあたっては、①患者中心の診療を行うこと、②計画診療を行うこと、③診療の流れのパターンを作ることが必要である。そのためには診療内容の改革が必要と考えられ、受診者来院時からのステップをひとつひとつ検討している。

3. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

主催者	年月日	学会・研究会	会 場	主催地
総合歯科 (CF network 共催)	2003 .12 25	Dentistry, Quo Vadis ? (4) 歯科医学はどのように生き残るべきか	野口英世記念会館	東京
総合歯科	2004 . 3 20	第 5 回総合歯科セミナー	東京歯科大学水道橋校舎 血脇記念ホール	東京

4. 教育講演等教育に関する業績，活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
青木 聡	2003 .11 . 9	生体への調和を目指して 生体材料，矯正，咬合そして...	FOX の会	京都市

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
青木 聡	2003.6.30	水道橋病院における卒前・卒後教育1 (身近な臨床勉強会)	企画, 運営, 進行, 講演	東京
青木 聡	2003.11.17	水道橋病院における卒前・卒後教育2 (身近な臨床勉強会)	企画, 運営, 進行, 講演	東京
青木 聡	2003.2.23	第1回東京歯科大学水道橋病院歯科 臨床研修医症例報告会	企画, 運営, 進行, 評価	東京

共用試験等

氏名	年月日	種別	役割	開催地
槇石 武美	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
青木 聡	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
槇石 武美	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
青木 聡	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	運営副委員長・ST 責任者	東京
牟田 具城	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	ST 責任者	東京

論 文

1. 高階博文⁽¹⁾, 青木 聡, 榎石武美, 黄 渡虎⁽¹⁾, 榎原功二⁽²⁾, 花島美和⁽²⁾, 佐藤貞雄⁽¹⁾ : さまざまな不快症状を訴える不正咬合患者の診断と治療, 日全身咬合会誌 9(2), 133 ~ 142, 2003. 原著 (1)神歯大・歯・成長発達歯科, (2)東京都

解 説

1. 青木 聡, 石川達也⁽¹⁾, 佐藤貞雄⁽²⁾ : やさしい咬合生物学 シークエンシャル咬合の理論と実際 4.口腔と全身の健康との関連, Quintessence 22(8), 1773 ~ 1779, 2003. 脳科学研 (1)保存 III,(2)神歯大・歯・成長発達歯科
2. 青木 聡 : やさしい咬合生物学 シークエンシャル咬合の理論と実際 6.咬合の診査から診断までのプロセス 診断のための診査項目の種類について, Quintessence 22(10), 2233 ~ 2241, 2003.
3. 佐藤貞雄⁽¹⁾, 玉置勝司⁽²⁾, 青木 聡, 花島美和⁽³⁾, 榎原功二⁽³⁾, ルドルフスラビチェック⁽⁴⁾ : やさしい咬合生物学 シークエンシャル咬合の理論と実際 9.機能咬合の原理, Quintessence 23(1), 183 ~ 192, 2004. (1)神歯大・歯・成長発達歯科,(2)神歯大・補綴,(3)東京都,(4)ドナウ大
4. 青木 聡, 佐藤貞雄⁽¹⁾ : やさしい咬合生物学 シークエンシャル咬合の理論と実際 10.咬合が崩壊した患者に対する新しい咬合の付与について, Quintessence 23(2), 439 ~ 448, 2004. (1)神歯大・歯・成長発達歯科
5. 青木 聡, 佐藤貞雄⁽¹⁾ : やさしい咬合生物学 シークエンシャル咬合の理論と実際 11.咬合再構成におけるガイダンスの位置づけ シークエンシャル咬合, Quintessence 23(3), 693 ~ 703, 2004. (1)神歯大・歯・成長発達歯科

学会抄録

1. 牟田具城, 杉山利子⁽¹⁾, 平井義人⁽¹⁾, 青木 聡, 榎石武美, 佐藤貞雄⁽²⁾ : 咬合再構成症例における垂直的コントロールの考え方について, 第 21 回日本顎咬合学会学術大会プログラム抄録集, 181, 2003. (第 21 回日本顎咬合学会学術大会, 東京) (1)保存 III,(2)神歯大・歯・成長発達歯科
2. 青木 聡, 榎石武美, 石川達也⁽¹⁾, 佐藤貞雄⁽²⁾ : 顎機能障害を有する患者の診断法と治療法の実例 第 2 報 さまざまな症状を持つ患者に対する治療例, 第 21 回日本顎咬合学会学術大会プログラム抄録集, 184, 2003. (第 21 回日本顎咬合学会学術大会, 東京) 脳科学研 (1)保存 III,(2)神歯大・歯・成長発達歯科
3. 益田賢治, 小貫瑞穂, 青木 聡, 松井みちる, 細川壮平, 榎石武美 : 右側顎関節に疼痛を訴える多数歯欠損患者に咬合再構成を試みた一例, 第 21 回日本顎咬合学会学術大会プログラム抄録集, 193, 2003.(第 21 回日本顎咬合学会学術大会, 東京)
4. 小貫瑞穂, 細川壮平, 大迫知子, 青木 聡, 榎石武美 : 日常の歯科臨床検査としての顎機能検査 -CADIAX を用いた顎機能検査法の術式について-, 歯科学報 103(6), 537, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市)
5. 牟田具城, 大澤梨恵, 竹井久典, 青木 聡, 榎石武美 : 咬合再構成症例における顎位の決定法に関する考察, 歯科学報 103(6), 538, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市)

6. 米山みき⁽¹⁾, 松久保 隆⁽¹⁾, 益田賢治, 青木 聡, 槇石武美 : 水道橋病院総合歯科における総合診断の進め方, 歯科学報 **103**(6), 554, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 脳科学研 (1)衛生

3. 補 綴 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授 安達 康	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究(A 83 0530 1)
助 教 授 堀田 宏巳	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究(A 83 0530 1)
助 手 三宅菜穂子	補綴材料への口腔内細菌の吸着に関する実験的研究(A 91 0520 2) 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響(HRC 5 A03)
野村 貴生	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究(A 83 0530 1)
長谷川洋人	無口蓋義歯の適応基準(A 00 0510 1)
金井 由起	歯冠色修復材料の表面処理方法と接着性に関する研究(A 99 0520 1)

2. 成果の概要

1) 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響(HRC 5 A03)

本研究はヒドロキシアパタイト表面に対する唾液タンパクと口腔内細菌の吸着，ヒドロキシアパタイト表面へのレーザー照射による唾液タンパクと口腔内細菌の吸着阻止効果を明らかにすることを目的とし，これまでゼータ電位の測定およびSEM，AFM について検討してきた．レーザーには GaAlAs 半導体ダイオードレーザー LD15(波長：810nm，Dentek Laser Systems Production 社製)を使用し，照射条件は6.1Watt 60sec，エネルギー密度0.0238J/m²とした．平成15年度は表面の微細構造を AFM(Nanopics，セイコーインスツルメンツ社製)により観察した．AFM には観察測定環境を室温・大気中の条件下とし，NPX100ヘッドと Nanopics1000コントローラを使用した．ゼータ電位ではコントロール群で -8.0 ± 2.0 (n = 9)，レーザー照射群で -8.4 ± 1.7 (n = 6)となり，差は認められず，SEM 像ではコントロール群とレーザー照射群のいずれも多数の研磨傷が観察され，差異はみとめられなかった．今回検討した AFM 3次元表示(断面プロファイル)像ではコントロール群に比べレーザー照射群で研磨傷先端が丸くなっていた．

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究 課 題	研究 費
三宅菜穂子	補綴材料およびアパタイト表面への唾液タンパクの吸着を阻止するべきか	科学研究費・若手(B)

4. 教育講演等教育に関する業績，活動

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
三宅菜穂子	2003.5.17 ～18	第9回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	参加者	千葉市
野村 貴生	2003.5.17 ～18	第9回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	参加者	千葉市
金井 由起	2003.5.17 ～18	第9回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	参加者	千葉市
長谷川洋人	2003.10.4 ～5	第10回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	参加者	千葉市

共用試験等

氏名	年月日	種別	役割	開催地
安達 康	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	運営委員	東京
堀田 宏巳	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
三宅菜穂子	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
野村 貴生	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
金井 由起	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
長谷川洋人	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	予備評価者	東京
田口 達夫	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	実行委員	東京
安達 康	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	運営委員	東京
堀田 宏巳	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
三宅菜穂子	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
野村 貴生	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
金井 由起	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
長谷川洋人	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京

論文

1. Miyashita,Y.⁽¹⁾, Arataki,T.⁽¹⁾, Nomura,T., Suzuki,H.⁽¹⁾, Atsuta,S.⁽¹⁾, Hotta,H., Shimamura,I.⁽¹⁾, Adachi,Y., Kishi,M.⁽¹⁾ : Clinical evaluation of osseointegrated implants in Tokyo Dental College Hospital (third report) : long term observation of functioning survival rate of fixtures, Bull Tokyo Dent Coll **44**(3), 169 ~ 175, 2003. 原著 (1)補綴 III
2. 熱田俊一⁽¹⁾, 森下亜矢子⁽¹⁾, 宮下有恒⁽¹⁾, 荒瀧友彦⁽¹⁾, 野村貴生, 関根秀志⁽¹⁾, 嶋村一郎⁽¹⁾, 安達 康, 岸 正孝⁽¹⁾ : 犬下顎骨に埋入した Fixture の除去所要力量について, 歯科学報 **103**(11), 860 ~ 869, 2003. 原著 実動施設 (1)補綴 III
3. Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Miyake,N., Takahashi,K.⁽²⁾, Ohta,K.⁽³⁾, Hattori,M.⁽⁴⁾, Muramatsu,T.⁽⁵⁾, Satou,T.⁽⁶⁾, Oda,Y.⁽⁴⁾, Shimono,M.⁽⁵⁾, Ishikawa,T.⁽²⁾ : Transformation of hydroxyapatite surface characteristics during diode laser irradiation, Biomed Res **25**(2), 105 ~ 108, 2004. 原著 HRC5A03 細形研 (1)臨検査,(2)保存 III,(3)生化学,(4)理工,(5)病理,(6)補綴 II

その他

1. 三宅菜穂子 : 補綴材料およびアパタイト表面への唾液タンパクの吸着を阻止するべきか, 平成 15 年度科学研究費若手研究(B)研究実績報告書, 2004. 科学研究費 14771108,A91-0520-2 細形研

学会抄録

1. Ishikawa,T.⁽¹⁾, Shimono,M.⁽²⁾, Oda,Y.⁽³⁾, Satou,T.⁽⁴⁾, Muramatsu,T.⁽²⁾, Matsuzaka,K.⁽⁵⁾, Miyake,N., Hattori,M.⁽³⁾, Takahashi,K.⁽¹⁾, Ohta,K.⁽⁶⁾ : Influences of a laser on the activity of salivary acinar cells, Bull Tokyo Dent Coll **44**(2), 108 ~ 109, 2003.(Workshop 2002 Oral Health Science Center Tokyo Dental College, Chiba) HRC5A03 細形研 (1)保存 III,(2)病理,(3)理工,(4)補綴 II,(5)臨検査,(6)生化学
2. 富田友美子⁽¹⁾, 三宅菜穂子, 石川博美⁽²⁾ : ラット唾液腺における細胞膜リン脂質, 第 42 回日本油化学会年会講演要旨集, 150, 2003.(第 42 回日本油化学会年会, 名古屋市) A89-0120-1 生素研 実動施設 (1)生化学,(2)文京大・教育
3. 池田浩子⁽¹⁾, 堀江伸行⁽²⁾, 鈴木啓介⁽²⁾, 高橋千賀子⁽¹⁾, 正木日立⁽¹⁾, 堀田宏巳, 山田素子⁽¹⁾, 山崎喜之⁽¹⁾, 佐藤雅志⁽¹⁾ : 高齢者の重症口腔感染症に関する検討, 老年歯医 **18**(3), 245 ~ 246, 2003.(第 14 回日本老年歯科医学会学術大会, 名古屋市) (1)東京都多摩老人医療センター・歯口外,(2)慶大・医・歯口外
4. 笠原正貴⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 益田賢治⁽³⁾, 堀田宏巳, 辻野啓一郎⁽⁴⁾, 長谷部利一⁽⁵⁾, 高野正行⁽⁶⁾, 山 満⁽⁶⁾, 島田 淳⁽⁷⁾, 青木 聡⁽³⁾, 槇石武美⁽²⁾, 安達 康, 大多和由美⁽⁴⁾, 谷田部賢一⁽⁵⁾, 柿澤 卓⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁸⁾ : 東京歯科大学水道橋病院における外来患者の満足度調査-総合評価-, 歯科学報 **103**(6), 65, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・麻酔科,(2)水病・保存科,(3)水病・総合歯科,(4)水病・小児歯科,(5)水病・矯正科,(6)水病・口外科,(7)水病・スポーツ歯科,(8)歯麻
5. 石川達也⁽¹⁾, 下野正基⁽²⁾, 小田 豊⁽³⁾, 佐藤 亨⁽⁴⁾, 村松 敬⁽²⁾, 松坂賢一⁽⁵⁾, 三宅菜穂子, 服部雅之⁽³⁾, 高橋 賢⁽¹⁾, 太田一正⁽⁶⁾ : 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響, 歯科学報 **104**(1), 51 ~ 52, 2004.(平成 14 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A03 細形研 (1)保存 III,(2)病理,(3)理工,(4)補綴 II,(5)臨検査,(6)生化学

6. 荒瀧友彦⁽¹⁾, 宮下有恒⁽¹⁾, 森下亜矢子⁽¹⁾, 野村貴生, 鈴木浩樹⁽¹⁾, 辻 吉純⁽¹⁾, 嶋村一郎⁽¹⁾, 安達 康, 岸 正孝⁽¹⁾ : 術前診断における治療機器の作業環境の把握, 日口腔インプラント会誌 17(1), 90, 2004. (第 33 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 名古屋市) (1)補綴 III
7. Suzuki,H.⁽¹⁾, Arataki,T.⁽¹⁾, Akahori,Y.⁽¹⁾, Miyashita,Y.⁽¹⁾, Hotta,H., Adachi,Y., Kishi,M.⁽¹⁾ : A development of the Immediate Impression Technique for Multiple Support Implants, Annual Spring Scientific Meeting of the Korea Academy of Protheodontics and the 1st Joint Academic Meeting with Japan Protheodontics Society Program and Abstracts, 119, 2004. (Annual Spring Scientific Meeting of the Korea Academy of Protheodontics and the 1st Joint Academic Meeting with Japan Protheodontics Society, Seoul, Korea) (1)補綴 III
8. Miyashita,Y.⁽¹⁾, Nomura,T., Suzuki,H.⁽¹⁾, Adachi,Y., Kishi,M.⁽¹⁾ : A 20-years Retrospective Study of Osseointegrated Implants in Tokyo Dental Chiba Hospital, 5th Annual Meeting of WCOI Japan Division 2003 Program and Abstracts, 20, 2004.(5th Annual Meeting of WCOI Japan Division 2003 , Tokyo) (1)補綴 III
9. 荒瀧友彦⁽¹⁾, 井上敬介⁽¹⁾, 宮下有恒⁽¹⁾, 森下亜矢子⁽¹⁾, 野村貴生, 鈴木浩樹⁽¹⁾, 安達 康, 岸 正孝⁽¹⁾ : 術前診断における治療機器の作業環境の把握 - 術前ドリリングシュミレーションの有用性について -, 日口腔インプラント会誌 17(2), 256, 2004.(日本口腔インプラント学会第 23 回関東甲信越支部総会・学術大会, 東京都) (1)補綴 III
10. 宮下有恒⁽¹⁾, 赤堀仁則⁽¹⁾, 荒瀧友彦⁽¹⁾, 野村貴生, 鈴木浩樹⁽¹⁾, 堀田宏巳, 安達 康, 岸 正孝⁽¹⁾ : 東京歯科大学における osseointegrated implant の臨床評価 - インプラント症例の長期観察に基づく fixture および上部構造の機能残存率, 日口腔インプラント会誌 17(2), 259 ~ 260, 2004.(日本口腔インプラント学会第 23 回関東甲信越支部総会・学術大会, 東京) (1)補綴 III
11. 本間慎也⁽¹⁾, 荒瀧友彦⁽¹⁾, 堀田宏巳, 嶋村一郎⁽¹⁾, 岸 正孝⁽¹⁾ : 骨結合インプラントにおける fixture の植立条件についての力学的考察 - 第一報 -, 日口腔インプラント誌 17(2), 266 ~ 267, 2004.(日本口腔インプラント学会第 23 回関東甲信越支部総会・学術大会, 東京) (1)補綴 III
12. 早川正哉⁽¹⁾, 堀田宏巳, 嶋村一郎⁽¹⁾, 岸 正孝⁽¹⁾ : 咬合面を介して伝達される衝撃とその緩和 - 顎関節からの伝達について -, 平成 15 年度日本補綴歯科学会関東支部総会第 7 回学術大会・プログラム抄録集, 8, 2004. (平成 15 年度日本補綴歯科学会関東支部総会第 7 回学術大会, さいたま市) (1)補綴 III

4. 小 児 歯 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講 師	大多和由美	外傷幼若永久歯における電氣的閾値の経時的変化(A 87 0450 4)
	望月 清志	永久歯萌出遅延歯の処置法
助 手	辻野啓一郎	乳歯形態異常, 歯数異常が永久歯列に及ぼす影響
病院助手	坪倉亜希子	乳歯, 幼若永久歯外傷の実態
	金子かおり	障害児(者) 歯科治療の実態

2. 成果の概要

歯科受診を契機に診断された Oculodentodigital syndrome の 1 例

Oculodentodigital syndrome は小眼球, 虹彩異常などの眼症状, 鼻翼の低形成を伴う直線的な鼻, 第 4, 5 指合指症や屈指症, 歯牙のエナメル形成不全を主症状とする先天性疾患である。本症候群は稀な疾患であり, 本邦では 17 家系 27 症例の報告をみるにすぎない。また, 特徴的な手指, 眼所見から発見されることが多い。本邦での歯科的所見に対する報告はわずか 2 例であり, しかも, 歯科受診を契機に診断されたという報告はない。今回, エナメル形成不全を含む歯科的な異常を主訴に来院した患児に, Oculodentodigital syndrome を疑い確定診断に至った症例を経験した。主な歯科的所見は, 広範なエナメル形成不全, 下顎後退傾向, 著しい咬耗, オパール状の色調, 臼歯部歯槽部の肥厚, 歯髓腔の狭窄傾向, 前歯部歯髓腔に象牙質瘤, 第二大臼歯の単根歯様形態, 下顎骨筋突起, 関節頭の形態不全などであった。

障害者歯 24(2), 158~164, 2003.

3. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育ワークショップ等

氏 名	年月日	ワークショップ名	役 割	開催地
大多和由美	2003. 5. 17 ~ 18	第 9 回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	タスクフォース	千葉市
辻野啓一郎	2003. 8. 22 ~ 24	第 13 回歯科医師臨床研修指導医 講習会	参加者	東京

共用試験等

氏名	年月日	種別	役割	開催地
大多和由美	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	実行副委員長	東京
辻野啓一郎	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	実行委員長	東京
望月 清志	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
坪倉亜希子	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価表集計係	東京
大多和由美	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	実行副委員長	東京
辻野啓一郎	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	実行委員長	東京
金子かおり	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価表集計係	東京
望月 清志	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京

論 文

1. 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 末石研二⁽²⁾, 山口秀晴⁽²⁾, 田中葉子⁽³⁾ : 歯科受診を契機に診断された Oculodentodigital syndrome の 1 例, 障害者歯 24(2), 158 ~ 164, 2003. 症例 (1)小児歯,(2)矯正,(3)市病・小児科
2. 内川智江, 北村智子, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 人工甘味料添加フッ化物ゲルの臨床応用 - 小児および保護者へのアンケート -, 小児歯誌 41(3), 560 ~ 565, 2003. 原著 (1)小児歯

学会抄録

1. 大多和由美, 辻野啓一郎, 望月清志, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 乳臼歯過剰歯を伴う Bloch-Sulzberger 症候群(色素失調症)の歯科的治療経験, 小児歯誌 41(2), 375, 2003.(第 41 回日本小児歯科学会大会および総会, 新潟市) (1)小児歯
2. Mochizuki,K., Shibukawa,Y.⁽¹⁾, Shintani,M.⁽²⁾, Yakushiji,M.⁽³⁾, Suzuki,T.⁽¹⁾, Ishikawa,T.⁽⁴⁾ : Magneto-encephalographic Representation of the Maxillary Permanent Canine in Human Somatosensory cortex , J Dent Res 82(Special Issue B), 653, 2003.(81st General Session & Exhibition of IADR, Gotenborg, Sweden) 脳科学研 (1)生理,(2)脳科学研究施設,(3)小児歯,(4)保存 III
3. 笠原正貴⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 益田賢治⁽³⁾, 堀田宏巳⁽⁴⁾, 辻野啓一郎, 長谷部利一⁽⁵⁾, 高野正行⁽⁶⁾, 山 満⁽⁶⁾, 島田 淳⁽⁷⁾, 青木 聡⁽³⁾, 槇石武美⁽²⁾, 安達 康⁽⁴⁾, 大多和由美, 谷田部賢一⁽⁵⁾, 柿澤 卓⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁸⁾ : 東京歯科大学水道橋病院における外来患者の満足度調査 - 総合表価 -, 歯科学報 103(6), 65, 2003. (第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・麻酔科,(2)水病・保存科,(3)水病・総合歯科,(4)水病・補綴科,(5)水病・矯正科, (6)水病・口外科,(7)水病・スポーツ歯科,(8)歯麻
4. 末石研二⁽¹⁾, 長谷部利一⁽²⁾, 谷田部賢一⁽²⁾, 辻野啓一郎, 横山葉子⁽³⁾, 高野正行⁽³⁾, 柿澤 卓⁽³⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 田中葉子⁽⁴⁾ : 鎖骨頭蓋異骨形成症の矯正治療について, 歯科学報 103(6), 535, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)矯正,(2)水病・矯正科,(3)水病・口外科,(4)市病・小児科
5. 大多和由美, 辻野啓一郎, 望月清志, 久保周平⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 小沢 浩⁽²⁾ : Microcephalic osteodysplastic primordial dwarfism II 型の 1 例, 障害者歯 24(3), 345, 2003.(第 20 回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 東京) (1)小児歯,(2)都立八王子小児病院・小児内科
6. 坪倉亜希子, 金子かおり, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 歯科大学小児歯科臨床における口腔外傷に関する実態調査, 歯科学報 103(10), 842, 2003.(第 276 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)小児歯
7. 望月清志, 久保周平⁽¹⁾, 黒須美佳⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 渋川義幸⁽²⁾, 田崎雅和⁽²⁾, 阿部伸一⁽³⁾, 山倉大紀⁽⁴⁾, 末石研二⁽⁵⁾, 坂本輝雄⁽⁵⁾, 中野洋子⁽⁶⁾ : 成長発育期における口腔内圧受容器と大脳皮質感覚野の関連について, 平成 15 年度 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 31, 2004. (平成 15 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) 3B01 脳科学研 (1)小児歯,(2)生理,(3)解剖,(4)補綴 III,(5)矯正,(6)口外 II

8. Mochizuki,K., Kubo,S.⁽¹⁾, Kurosu,M.⁽¹⁾, Yakushiji,M.⁽¹⁾, Shibukawa,Y.⁽²⁾, Tazaki,M.⁽²⁾, Abe,S.⁽³⁾, Yamakura,D.⁽⁴⁾, Sueishi,K.⁽⁵⁾, Sakamoto,T.⁽⁵⁾, Nakano,Y.⁽⁶⁾ : Magnetencephalographic analysis of the somatosensory area , during the growth and developmental of the human cerebal cortex , relevant to the intraoral presso reeptor, Workshop 2004 Oral Health Science Center Tokyo Dental College Program and Abstracts, 94 ~ 95, 2004. (Workshop 2004 Oral Health Science Center Tokyo Dental College, Chiba) 3B01 (1)小児歯,(2)生理,(3)解剖,(4)補綴 III,(5)矯正,(6)口外 II

9. 金子かおり, 坪倉亜希子, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 歯科大学附属病院小児歯科における 障害児(者)治療の実態調査, 小児歯誌 42(1), 136 ~ 137, 2004.(第 17 回日本小児歯科学会関東地方会大会および総会, さいたま市) (1)小児歯

5 . 矯 正 歯 科

プロフィール

1 . 教室員と主研究テーマ

教 授	谷田部賢一	矯正術後の長期安定性について
講 師	宮崎 晴代	8 0 2 0 達成者の歯科疾患罹患状況および生活と健康に関する調査結果について (A 90 0590 1)
助 手	長谷部利一	変形性顎関節症と顎顔面形態及び不正咬合の関連について
	林 正樹	顔面非対称者の咬合力についての解析
病院助手	安部 輝美	
	海老原 環	
	三代 真義	
	吉村 亮子	
	鈴木 祥子	
	横田 麗子	
診療援助医	小野 暁美	

2 . 成果の概要

1) カウンターフォースアーチを用いた矯正治療前後における顎頭の位置変化と治療効果について

straight wire appliance 法に reverse curve of Spee が付与されたワイヤーを用いた際におこる治療効果について咬合器 Panadent 社製 condylar positioning indicator(C. P. I.), 及び側貌頭部エックス線規格写真を使用して検討した。矯正治療による顎頭の位置変化を C. P. I. を用いて調査した結果、顎頭の偏位量の減少を Lancer 社製 counter force(CF)を用いて矯正治療を行った CF 群、ステンレススチールワイヤー(SS)を用いて矯正治療を行った SS 群共に認めなかった。しかし、SS 群では顎頭偏位量の収束を認めた。矯正治療による骨格的变化を、側貌セファロを用いて調査した結果、CF 群における臼歯部の挺出量が大きくこのため下顎体部の下後方への回転を認めた。

歯科学報 101(1), 1025 ~ 1032, 2001 .

2) 8 0 2 0 達成者の歯科疾患罹患状況および生活と健康に関する調査結果について

我々は咬合と歯牙喪失の関係に着目し 8 0 2 0 達成者の咬合および顎顔面形態が正常に近い事を報告した。今回は質問紙調査と口腔診査から 8 0 2 0 達成者の生活や身体の状態、口腔保健状態を検討した。8 0 2 0 達成者は生活満足度が高く、比較的良好な咬合と口腔機能を有した。歯磨き回数は平均的で半数以上が歯周病症状を有したが、歯列が整い口腔清掃がし易い事、喫煙率が低い事、定期検診率が高い事が歯の維持につながる可能性が推察された。

歯科学報 104(2), 140 ~ 145, 2004 .

3 . 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究 課 題	研 究 費
宮崎 晴代	8 0 2 0 達成者の咬合および顎顔面形態に関する調査 咬合状態は 8 0 2 0 達成に関与するか	平成14年度 8 0 2 0 推進財団 公募研究

4. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

モデレーター	年月日	演 題	学 会 名	開催地
宮崎 晴代	2003.8.8	市民公開講座 ご存じでしたか 8020達成は良い歯並びから	日本臨床矯正医会	千葉市
宮崎 晴代	2003.8.21	市民公開講座 ご存じでしたか 8020達成は良い歯並びから	日本臨床矯正医会	名古屋市
宮崎 晴代	2003.11.3	市民公開講座 ご存じでしたか 8020達成は良い歯並びから	日本臨床矯正医会	さいたま市

学会招待講演

講演者	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
宮崎 晴代	2003.9.15	患者のニーズにどう答えるか	第2回 LDA 講演会	東京

5. 教育講演等教育に関する業績, 活動

共用試験等

氏 名	年月日	種 別	役 割	開催地
谷田部賢一	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
宮崎 晴代	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
長谷部利一	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
林 正樹	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	誘導係	東京
谷田部賢一	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
宮崎 晴代	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
長谷部利一	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
林 正樹	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	誘導係	東京

論 文

1. 鈴木祥子⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 早川浩太郎⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 野口祐輔⁽²⁾, 佐藤 亨⁽²⁾, 平井義人⁽³⁾, 石川達也⁽³⁾ : バランサー体重計による 8020 達成者の姿勢について, 日全身咬合会誌 **9**(2), 116 ~ 120, 2003. 原著 (1)矯正,(2)補綴 II,(3)保存 III
2. 北総博之⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 宮崎晴代, 山口尊生⁽¹⁾, 鈴木祥子⁽¹⁾, 芳野亜希子⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 高根ユミ⁽¹⁾, 佐々木美央⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾ : 8020 達成者と養護施設高齢者の超音波骨密度による比較検討, 日全身咬合会誌 **9**(2), 11 ~ 15, 2003. 原著 (1)矯正
3. 三宅晶子⁽¹⁾, 安部輝美, 三代真義, 横田麗子⁽²⁾, 末石研二⁽²⁾, 山口秀晴⁽²⁾, 神保芳之⁽¹⁾ : 成人の口蓋前方部に加わる最大舌圧と嚥下時舌圧の測定, 東京矯正歯科学会誌 **13**(2), 221 ~ 230, 2003. 原著 (1)神奈川県,(2)矯正

単行図書

1. 宮崎晴代(a): 著分担 : 歯界展望 別冊/ホワイトニング - 審美歯科のメインストリーム - (a)矯正歯科外来患者のホワイトニングに関する意識調査からみえてくるもの 104 ~ 109 頁, 医歯薬出版, 東京, 2003.
2. 宮崎晴代: 単著 : からだの質問箱 矯正で抜歯して良いか , 読売新聞社, 東京, 2003.
3. 宮崎晴代(a): 著分担 : ジュニアの矯正歯科ブック (a)おしえて先生, 治療にまつわる気になるあれこれ 22 ~ 23 頁, 世界文化社, 東京, 2004.

調査報告

1. 宮崎晴代(a): 平成 14 年度 8020 推進財団公募研究報告書 (a)8020 達成者の咬合および顎顔面形態に関する調査 - 咬合状態は 8020 達成に関与するか - 37 ~ 55 頁, 財団法人 8020 推進財団, 東京, 2003.

学会抄録

1. Motegi,E.⁽¹⁾, Nomura,M.⁽¹⁾, Ishihara,K.⁽²⁾, Okuda,K.⁽²⁾, Ishii,T.⁽³⁾, Miyazaki,H., Sasaki,M.⁽¹⁾, Yamaguchi,H.⁽¹⁾, Sekiguchi,M.⁽⁴⁾ : Colonization by Staphylococcus species and Candida albicans in elderly people, J Dent Res **82**(Special Issue B), B-348, 2003.(81st General Session of International Association for Dental Research, Gotenborg, Sweden) (1)矯正,(2)微生物,(3)沖縄県,(4)千葉県
2. 笠原正貴⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 益田賢治⁽³⁾, 堀田宏巳⁽⁴⁾, 辻野啓一郎⁽⁵⁾, 長谷部利一, 高野正行⁽⁶⁾, 山 満⁽⁶⁾, 島田 淳⁽⁷⁾, 青木 聡⁽³⁾, 榎石武美⁽²⁾, 安達 康⁽⁴⁾, 大多和由美⁽⁵⁾, 谷田部賢一, 柿澤 卓⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁶⁾ : 東京歯科大学水道橋病院における外来患者の満足度調査 - 総合表価 -, 歯科学報 **103**(6), 65, 2003. (第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・麻酔科,(2)水病・保存科,(3)水病・総合歯科,(4)水病・補綴科,(5)水病・小児歯科,(6)水病・口外科,(7)水病・スポーツ歯科,(8)歯麻
3. 末石研二⁽¹⁾, 長谷部利一, 谷田部賢一, 辻野啓一郎⁽²⁾, 横山葉子⁽³⁾, 高野正行⁽³⁾, 柿澤 卓⁽³⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 田中葉子⁽⁴⁾ : 鎖骨頭蓋異骨形成症の矯正治療について, 歯科学報 **103**(6), 535, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)矯正,(2)水病・小児歯科,(3)水病・口外科,(4)市病・小児科

4. 坂本輝雄⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 添島絵美⁽¹⁾, 増淵牧子⁽¹⁾, 西村文邦⁽¹⁾, 根岸史郎⁽¹⁾, 長谷部利一, 山口秀晴⁽¹⁾, 渡辺彰二⁽²⁾, 西村二郎⁽²⁾ : Beckwith-Widemann syndrome の矯正学的検討, 日矯正歯会 62 回抄集, 269, 2003.(第 62 回日本矯正歯科学会新潟大会, 新潟市) (1)矯正.(2)埼玉県立小児医療センター形成外科
5. Miyazaki,H., Onuki,A., Ueda,K., Katsumura,S., Kiyomoto,K., Hayashi,M., Abe,T., Ebihara,T., Hasebe,T., Yatabe,K. : Comparison of dental status between orthognathic surgery cases and orthodontic cases , American Association of Orthodontists, 2003.(American Association of Orthodontists, 103rd Annual Session, Honolulu, USA)
6. 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 副島詩子⁽¹⁾, 鈴木祥子⁽¹⁾, 芳野亜希子⁽¹⁾, 金子幸生⁽¹⁾, 清水貴子⁽¹⁾, 山口尊生⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾ : 8020 達成者の正貌頭部エックス線規格写真による検討, 日矯正歯会 62 回抄集, 158, 2003.(第 62 回日本矯正歯科学会大会, 新潟市) 脳科学研 (1)矯正
7. 槇石武美⁽¹⁾, 谷田部賢一 : 歯科大学付属病院での歯科衛生士学生実習教育の現状報告, 歯科学報 103(10), 843, 2004.(第 276 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)水病・保存科

6 . 口 腔 外 科

プロフィール

1 . 教室員と主研究テーマ

教 授	柿澤 卓	非進展口腔癌に対する予後推測因子(A98 0470 8)
講 師	松井 隆	口腔外科領域における偶発症の検討
	高野 正行	粘膜染色による口腔粘膜疾患の診断(A98 0470 13)
助 手	山 満	初期口腔癌の診断と治療
	横山 葉子	症候群と顎嚢胞との関連(A98 0470 11)
	高崎 義人	末梢神経の障害と再生に関する研究
	秋元 善次	顎変形症患者における咬合平面と頸椎との関連について
	瀬田 修一	顎顔面外傷の原因による臨床的特徴
病院助手	小泉 陽子	ヒト口腔カンジダ菌に関する検出・同定に関する研究
	高久勇一朗	歯科入院患者の感染症に関する統計
	菊地 徹行	顎変形症患者におけるオトガイ神経知覚鈍麻に関する研究
	今井 崇之	外来口腔外科処置の臨床統計
	岡村 大器	水道橋病院口腔外科における高齢者の臨床統計
	北浦 宏明	顎変形症患者の術前術後の心理変化の比較
	桑山 真寧	水道橋病院口腔外科における口腔良性腫瘍の臨床統計
	東田亜樹子	新しい骨接合素材の安定性について
	廣瀬 史子	口腔外科症手術予後の検討
	大山 定男	歯科治療における出血性素因患者の臨床的研究
	東郷 聡司	顎顔面領域の神経疾患に関する臨床的研究
	中田こずえ	口腔粘膜疾患に関する研究
	藤田 佳子	顎変形症患者における下顎頭位に関する研究
	門田 崇	口腔外科疾患術後栄養管理に関する研究

2 . 成果の概要

1) Reconstruction of the Inferior Alveolar Nerve by Autologous Graft : A Retrospective Study of 20 Cases Examining Donor Nerve Length.

The purpose of this study was to confirm the length and kind of donor nerves used in nerve grafts for reconstruction of inferior alveolar nerve defects. The authors conducted a retrospective study of surgeries that were performed between 1977 and 1996. A total of 20 patients underwent nerve grafting procedures during this period. The greater auricular nerve was selected as the donor nerve in 16 cases, while the sural nerve was selected in 4. Mean lengths of donor nerves were 7.28 ± 1.6 cm and 11.5 ± 3.4 cm for the greater auricular and sural nerves, respectively. As indicated, the sural nerves were significantly longer($P < 0.01$) Mean lengths of donor nerves grafted for partial resection and hemi-mandibulectomy were 7.23 ± 1.6 cm and 10.8 ± 3.4 cm, respectively. Statistical analysis indicated that grafts used in the hemi-mandibulectomy group were significantly longer($P < 0.05$) In terms of types of donor nerve used in mandibulectomies, the greater auricular nerve was used in the majority of partial resections, and the sural nerve was employed for hemi-mandibulectomy.

Bull Tokyo Dent Coll **44**(2), 29 ~ 35, 2003 .

3. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演題名	学会名	主催地
高崎 義人	2001.6.21	下歯槽神経再建手術後の知覚回復過程に関する臨床的検討	第25回日本頭頸部腫瘍学会	札幌市
高崎 義人	2002.10.31	神経修復手術後の知覚機能評価に関する臨床的検討 SW知覚検査システムによる評価法の留意点について	第47回日本口腔外科学会総会	札幌市
高崎 義人	2003.3.2	高度歯槽堤萎縮患者における下歯槽神経知覚障害の1例	第7回口腔顔面神経機能学会	鹿児島市
瀬田 修一	2003.3.2	下顎智歯抜歯における承諾書使用経験と患者意識調査	第7回口腔顔面神経機能学会	鹿児島市
高崎 義人	2003.10.24	下歯槽神経知覚障害の治療効果に関する臨床的検討 星状神経節ブロックの有用性について	第48回日本口腔外科学会	富山市
高崎 義人	2004.3.6	SW知覚テストにおける検査条件・評価方法の留意点 特に測定部位について	第8回口腔顔面神経機能学会	横浜市

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
柿澤 卓	2003.4.17	抜歯のEBMにむけて なぜ下顎智歯は予防的に抜歯するのか	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
高野 正行	2003.4.17	ヒヤリ・ハット(紙一重の医療過誤) 使用頻度の高い薬剤と禁忌	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
今井 崇之	2003.4.17	高度歯槽堤萎縮患者における下歯槽神経知覚障害の一例	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
廣瀬 史子	2003.4.17	チームアプローチで治療した著しい歯周病の一例	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
横山 葉子	2003.4.17	経過観察の重要性 拡大する病変	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
山 満	2003.4.17	口腔癌 当科における口腔癌の取り扱い	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
松井 隆	2003.4.17	保険請求上の注意点	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
瀬田 修一	2003.4.17	下顎智歯抜歯における承諾書資料経験と患者の意識調査	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
高崎 義人	2003.4.17	水道橋病院口腔外科におけるクリニカルパス導入の試み	第二回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
秋元 善次	2003.10.4 ～ 5	第10回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	参加者	千葉市
瀬田 修一	2003.10.4 ～ 5	第10回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	参加者	千葉市

共用試験等

氏名	年月日	種別	役割	開催地
柿澤 卓	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
山 満	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	ST4 責任者	東京
秋元 善次	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	記録係	東京
瀬田 修一	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価表係	東京
柿澤 卓	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
高野 正行	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	記録係	東京
横山 葉子	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	ST1 責任者	東京
瀬田 修一	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価表係	東京

論 文

1. Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Murakami,S.⁽¹⁾, Shimono,M.⁽²⁾, Kakizawa,T., Inoue,T.⁽¹⁾ : Oncocytic tumor in myoepithelioma arising from the grossopalatine gland, *Oral Oncol* **39**(3), 306 ~ 308, 2003. 症例 細形研 (1)臨検査,(2)病理
2. Takasaki,Y., Noma,H.⁽¹⁾, KITAMI,T.⁽²⁾, Shibahara,T.⁽¹⁾, SASAKI,K.⁽³⁾ : Reconstruction of the Inferior Alveolar Nerve by Autologous Graft : A Retrospective Study of 20 Cases Examining Donor Nerve Length, *Bull Tokyo Dent Coll* **44**(2), 29 ~ 35, 2003. 原著 (1)口外 I,(2)福島県,(3)亀田総合病院・口外
3. 柴原孝彦⁽¹⁾, 神尾 崇⁽¹⁾, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 武田栄三⁽¹⁾, 高崎義人, 野間弘康⁽¹⁾ : 外側前腕皮神経による下歯槽神経修復術, *日口腔科会誌* **52**(5), 243 ~ 246, 2003. 原著 A98-0470-1 (1)口外 I

単行図書

1. 高崎義人(a): 著分担 :別冊 the Quintessence 口腔外科 YEAR BOOK 一般臨床家、口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル'03 (a)第 6 章 全身管理からトラブル予防まで、2.神経麻痺にどう対応するか 症状と患者に対する説明 243 ~ 248 頁, クインテッセンス出版, 東京, 2003.

プロシーディングス

1. Takano,M., Takasaki,Y., Akimoto,Y., Kakizawa,T., Yajima,Y.⁽¹⁾, Noma,H.⁽¹⁾ : The usefulness of the clinical staining test with iodine and toluidine blue solutions to diagnose carcinoma that developed from oral precancer, *Int J Oral Maxillofac Surg* **32**(1), 108, 2003.(16th International conference on oral & maxillo-facial surgery, Athens, Greece) 脳科学研 (1)口外 I

調査報告

1. 池田正一⁽¹⁾, 前田憲昭⁽²⁾, 小森康雄⁽³⁾, 柿澤 卓, 田上 正⁽⁴⁾, 樋口勝規⁽⁵⁾, 吉野 宏⁽⁶⁾研究協力者, 連 利隆⁽⁷⁾研究協力者, 玉城廣保⁽⁸⁾, 宮田 勝⁽⁹⁾, 高木律男⁽¹⁰⁾, 山口 泰⁽¹¹⁾, 村井雅彦⁽¹²⁾, 久保寺友子⁽¹³⁾: 厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV 感染症の歯科医療に関する研究 平成 15 年度研究報告書 , HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班, 2004. (1)神奈川県立こども医療センター・歯科,(2)医療法人社団皓歯会,(3)東医大・口外,(4)国立国際医療センター・口外,(5)国立病院九州医療センター・口外,(6)広島大・歯・保存科,(7)大阪市立総合医療センター・口外,(8)国立名古屋病院・口外,(9)石川県立中央病院・口外,(10)新潟大・歯・口外,(11)国立仙台病院・口外,(12)愛知県歯科医師会,(13)神奈川県立こども医療センター歯科

学会抄録

1. Takasaki,Y., Noma,H.⁽¹⁾, Takagi,T.⁽¹⁾, Takano,M., Kakizawa,T., Yamane,G.⁽²⁾ : An assessment of sensory disturbance after SSRO using Semmes-Weinstein monofilaments, *J Dent Res (CD-ROM)* **83**(Special Issue A), #2318, 2003.(82nd general session & exhibition of the IADR/AADR/CADR, Honolulu, USA) (1)口外 I,(2)市病・オーラルメディスン
2. Takano,M., Kakizawa,T., Takasaki,Y., Koizumi,Y., Taniguchi,M.⁽¹⁾ : Evaluation of a High-sensitivity Candida Mannan Detection from Saliva Samples, *J Dent Res (CD-ROM)* **83**(Special Issue A), #3342, 2003.(82nd general session & exhibition of the IADR/AADR/CADR, Honolulu, USA) (1)東京都

3. Takasaki, Y., Noma, H.⁽¹⁾, Shibahara, T.⁽¹⁾, Takano, M., Yamane, G.⁽²⁾, Kakizawa, T. : Pull-through technique of the inferior alveolar nerve, *Int J Oral Maxillofac Surg* **32**(1), 94, 2003. (16th International Conference on Oral & Maxillo-facial Surgery, Athens, Greece) (1)口外 I, (2)市病・オーラルメディスン
4. 笠原正貴⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 益田賢治⁽³⁾, 堀田宏巳⁽⁴⁾, 辻野啓一郎⁽⁵⁾, 長谷部利一⁽⁶⁾, 高野正行, 山満, 島田淳⁽⁷⁾, 青木聡⁽³⁾, 横石武美⁽²⁾, 安達康⁽⁴⁾, 大多和由美⁽⁵⁾, 谷田部賢一⁽⁶⁾, 柿澤卓, 金子譲⁽⁸⁾ : 東京歯科大学水道橋病院における外来患者の満足度調査 - 総合表価 -, *歯科学報* **103**(6), 65, 2003. (第 275 回 東京歯科大学例会, 千葉市) (1)水病・麻酔科, (2)水病・保存科, (3)水病・総合歯科, (4)水病・補綴科, (5)水病・小児歯科, (6)水病・矯正科, (7)水病・スポーツ歯科, (8)歯麻
5. 末石研二⁽¹⁾, 長谷部利一⁽²⁾, 谷田部賢一⁽²⁾, 辻野啓一郎⁽³⁾, 横山葉子, 高野正行, 柿澤卓, 山口秀晴⁽¹⁾, 田中葉子⁽⁴⁾ : 鎖骨頭蓋異骨形成症の矯正治療について, *歯科学報* **103**(6), 535, 2003. (第 275 回東京歯科大学例会, 千葉市) (1)矯正, (2)水病・矯正科, (3)水病・小児歯科, (4)市病・小児科
6. 中田こずえ, 桑山真寧, 秋元善次, 柿澤卓, 橋本貞充⁽¹⁾, 嶋香織⁽¹⁾ : 口腔内に初発した尋常性天疱瘡の一例, *歯科学報* **103**(6), 541, 2003. (第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 細形研 (1)病理
7. 山満, 小泉陽子, 柿澤卓, 橋本貞充⁽¹⁾, 嶋香織⁽¹⁾ : X 線透過像の拡大が認められた静止性骨空洞の 1 例, *日口腔外会誌* **49**(7), 475 ~ 476, 2003. (第 174 回日本口腔外科学会関東地方大会, 東京) (1)病理
8. 山下優花⁽¹⁾, 田中千早⁽¹⁾, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 高木亮⁽¹⁾, 原宣道⁽²⁾, 山口晋一⁽¹⁾, 西堀陽平⁽²⁾, 山内智博⁽¹⁾, 高崎義人, 高木多加志⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 内山健志⁽²⁾, 野間弘康⁽¹⁾ : 舌神経知覚障害に対し神経修復術を施行した 4 例, *日口腔外会誌* **49**(7), 476, 2003. (第 36 回日本口腔外科学会関東地方会, 東京) (1)口外 I, (2)口外 II
9. 坂本貴和子⁽¹⁾, 国分栄仁⁽¹⁾, 小池吉彦⁽¹⁾, 村上聡⁽¹⁾, 松坂賢一⁽¹⁾, 佐々木穂高⁽²⁾, 嶋香織⁽²⁾, 橋本貞充⁽²⁾, 下野正基⁽²⁾, 山満, 柿澤卓, 井上孝⁽¹⁾ : 舌平滑筋肉腫の一例, 第 14 回日本口腔病理学会総会プログラム, 90, 2003. (第 14 回日本口腔病理学会総会, 兵庫県津名郡) (1)臨検査, (2)病理
10. 横尾恵子⁽¹⁾, 田中千早⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 花上健一⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 畑田憲一⁽¹⁾, 片倉朗⁽¹⁾, 高野正行, 高木多加志⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 柿澤卓, 野間弘康⁽¹⁾ : 口腔扁平上皮癌の再発とヨード染色法の有用性について, *日口腔腫瘍会誌* **15**(3), 96 ~ 97, 2003. (第 21 回日本口腔腫瘍学会総会, 宜野湾市) A89-0470-13 (1)口外 I
11. 笠原清弘⁽¹⁾, 田中千早⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 花上健一⁽¹⁾, 畑田憲一⁽¹⁾, 片倉朗⁽¹⁾, 高野正行, 高木多加志⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 柿澤卓, 野間弘康⁽¹⁾ : 口腔扁平上皮癌 N0 症例における頸部リンパ節転移に関する検討, *日口腔腫瘍会誌* **15**(3), 133 ~ 134, 2003. (第 21 回日本口腔腫瘍学会総会, 宜野湾市) (1)口外 I
12. 田中千早⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 花上健一⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 畑田憲一⁽¹⁾, 片倉朗⁽¹⁾, 高野正行, 高木多加志⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 柿澤卓, 野間弘康⁽¹⁾ : 当科における口腔多発癌の臨床的検討, *日口腔腫瘍会誌* **15**(3), 179 ~ 180, 2003. (第 21 回日本口腔腫瘍学会総会, 宜野湾市) (1)口外 I
13. 岡村大器, 柿澤卓, 高野正行, 高崎義人, 秋元善次, 瀬田修一 : 当科における唾液腺腫瘍の臨床統計学的検討, *日口腔腫瘍会誌* **15**(3), 184 ~ 185, 2003. (第 21 回日本口腔腫瘍学会総会, 宜野湾市)

14. 畑田憲一⁽¹⁾, 田中千早⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 花上健一⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 片倉 朗⁽¹⁾, 高野正行, 高木多加志⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 柿澤 卓, 野間弘康⁽¹⁾ : 悪性腫瘍症例の臨床統計学的検討, 日口腔腫瘍会誌 **15**(3), 185 ~ 186, 2003.(第 21 回日本口腔腫瘍学会総会, 宜野湾市) (1)口外 I
15. 高野正行, 桑山真寧, 小泉陽子, 北浦宏明, 高崎義人, 柿澤 卓, 松坂賢一⁽¹⁾, 井上 孝⁽¹⁾ : 口腔前癌病変より癌化した症例の検討, 第 48 回日本口腔外科学会抄録集, 351, 2003.(第 48 回日本口腔外科学会, 富山市) (1)臨検査
16. 門田崇, 今井崇之, 高久勇一郎, 秋元善次, 高野正行, 柿澤 卓, 内田育宏⁽¹⁾ : 重篤な糖尿病患者にみられた顎下腺炎の一例, 歯科学報 **103**(10), 829, 2003.(第 276 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)都立駒込病院・口外
17. 山内智博⁽¹⁾, 田中千早⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 花上健一⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 畑田憲一⁽¹⁾, 片倉 朗⁽¹⁾, 高野正行, 高木多加志⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 柿澤 卓, 野間弘康⁽¹⁾, 内山健志⁽²⁾ : 舌悪性腫瘍症例の臨床統計学的検討, 日口腔科会誌 **52**(6), 336, 2003.(第 57 回日本口腔科学会総会, 福岡市) (1)口外 I,(2)口外 II
18. 野村武史⁽¹⁾, 田中千早⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 花上健一⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 畑田憲一⁽¹⁾, 片倉 朗⁽¹⁾, 高野正行, 高木多加志⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 柿澤 卓, 野間弘康⁽¹⁾, 内山健志⁽²⁾ : 当科における重複癌の臨床統計学的検討, 日口腔科会誌 **52**(6), 338, 2003.(第 57 回日本口腔科学会総会, 福岡市) (1)口外 I,(2)口外 II
19. 花上健一⁽¹⁾, 田中千早⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 畑田憲一⁽¹⁾, 片倉 朗⁽¹⁾, 高野正行, 高木多加志⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 柿澤 卓, 野間弘康⁽¹⁾, 内山健志⁽²⁾ : 口腔悪性腫瘍予後不良症例の検討, 日口腔科会誌 **52**(6), 342 ~ 343, 2003.(第 57 回日本口腔科学会総会, 福岡市) (1)口外 I,(2)口外 II
20. 嶋 香織⁽¹⁾, 橋本貞充⁽¹⁾, 高野正行, 瀬田修一, 柿澤 卓, 井上 孝⁽²⁾, 下野正基⁽¹⁾ : 上顎に発生した歯原性石灰化上皮腫の 1 例, 日口腔科会誌 **52**(6), 365 ~ 366, 2003.(第 57 回日本口腔科学会総会・学術大会, 福岡市) A79 0160 23 細形研 (1)病理,(2)臨検査
21. 廣瀬史子, 今井崇之, 横山葉子, 松井 隆, 柿澤 卓 : 歯根端切除術の治療成績に関する臨床学的検討 (第一報) 過去に施行した症例の分析, 日口腔科会誌 **52**(6), 403 ~ 404, 2003.(第 57 回日本口腔科学会総会, 福岡市)
22. 小泉陽子, 北浦宏明, 高野正行, 柿澤 卓 : 唾液中カンジダマンナン抗原検出による, 口腔カンジダ関連疾患の治療効果判定, 日口腔科会誌 **52**(6), 443 ~ 444, 2003.(第 57 回日本口腔科学会総会, 福岡市)
23. 東田亜樹子, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : Le Fort I 型骨切り術における吸収性ポリ-L-乳酸(PLLA)プレートの術後安定性, 日口腔科会誌 **52**(6), 462, 2003.(第 57 回日本口腔科学会総会, 福岡市)
24. 菊池徹行, 北浦宏明, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 野間弘康⁽¹⁾ : 顎変形症手術後におけるオトガイ神経知覚障害の回復過程に関する臨床的検討-程度分類による各検査の測定可能率-, 日顎変形会誌 **13**(3), 199, 2003.(第 13 回日本顎変形症学会総会, 札幌市) (1)口外 I
25. 北浦宏明, 菊池徹行, 瀬田修一, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 当科における顎矯正手術の臨床統計的研究, 日顎変形会誌 **13**(3), 208, 2003.(第 13 回日本顎変形症学会総会, 札幌市)

26. Akimoto, Y. : Study of the inclination of the occlusal plane in jaw deformity patients , Int J Oral Maxillofac Surg **32**(1), 86, 2003.(16th International conference on oral & maxillo-facial surgery, Athens, Greece)
27. 桑山真寧, 東田亜樹子, 菊池徹行, 高野正行, 柿澤 卓, 松坂賢一⁽¹⁾, 井上 孝⁽¹⁾ : 上顎洞進展型の嚢胞内に発生した扁平上皮癌の一例, 第 22 回日本口腔腫瘍学会抄録集, 128, 2003.(第 22 回日本口腔腫瘍学会抄録集, 金沢市) (1)臨検査
28. 大山定男, 廣瀬史子, 秋元善次, 横山葉子, 柿澤 卓, 大鶴 洋⁽¹⁾ : 当科で経験した特発性血小板減少性紫斑病の 1 例, 日口外誌 **50**(2), 98, 2004.(第 175 回日本口腔外科学会関東地方会, 横浜市) (1)国立東京医療センター・歯口外
29. 矢島安朝⁽¹⁾, 武田栄三⁽¹⁾, 田崎雅和⁽²⁾, 坂本貴和子⁽³⁾, 田崎裕紀⁽²⁾, 渋川義幸⁽²⁾, 別所央城⁽¹⁾, 関根秀志⁽⁴⁾, 阿部伸一⁽⁵⁾, 井上 孝⁽³⁾, 片倉 朗⁽¹⁾, 佐藤 亨⁽⁶⁾, 柿澤 卓, 井出吉信⁽⁵⁾ : MEG 計測による大脳皮質味覚野の特定 味質、刺激濃度、温感刺激による応答部位の違いと潜時の差を中心に , 平成 15 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集, 11~12, 2004.(平成 15 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)口外 I, (2)生理, (3)臨検査, (4)補綴 III, (5)解剖, (6)補綴 II
30. 武田栄三⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 田崎雅和⁽²⁾, 渋川義幸⁽²⁾, 関根秀志⁽³⁾, 阿部伸一⁽⁴⁾, 井上 孝⁽⁵⁾, 片倉 朗⁽¹⁾, 佐藤 亨⁽⁶⁾, 柿澤 卓, 井出吉信⁽⁴⁾ : MEG 計測による大脳皮質味覚野の特定 口蓋蝕刺激による味覚野の応答 , 歯科学報 **104**(1), 19~21, 2004.(平成 14 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)口外 I, (2)生理, (3)補綴 III, (4)解剖, (5)臨検査, (6)補綴 II
31. 矢島安朝⁽¹⁾, 武田栄三⁽¹⁾, 田崎雅和⁽²⁾, 渋川義幸⁽²⁾, 関根秀志⁽³⁾, 阿部伸一⁽⁴⁾, 井上 孝⁽⁵⁾, 片倉 朗⁽¹⁾, 佐藤 亨⁽⁶⁾, 柿澤 卓, 井出吉信⁽⁴⁾ : MEG 計測による大脳皮質味覚野の特定 口蓋部蝕刺激による味覚野の応答 , 歯科学報 **104**(1), 24~25, 2004.(平成 14 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)口外 I, (2)生理, (3)補綴 III, (4)解剖, (5)臨検査, (6)補綴 II
32. Sakamoto, K.⁽¹⁾, Kokubu, E.⁽¹⁾, Koike, Y.⁽¹⁾, Murakami, S.⁽¹⁾, Matsuzaka, K.⁽¹⁾, Sasaki, H.⁽²⁾, Shima, K.⁽²⁾, Hashimoto, S.⁽²⁾, Shimono, M.⁽²⁾, Yama, M., Kakizawa, T., Inoue, T.⁽¹⁾ : A case of leiomyosarcoma arising from tongue, Oral Med & Pathol **9**(1), 49, 2004.(14th Annual Meeting of the Japanese Society for Oral Pathology, Awajishima) A-0611-2 (1)臨検査, (2)病理
33. Hatada, K.⁽¹⁾, Noma, H.⁽¹⁾, Tanaka, C.⁽¹⁾, Yokoo, K.⁽¹⁾, Nomura, T.⁽¹⁾, Hanaue, K.⁽¹⁾, Yamauchi, T.⁽¹⁾, Kasahara, K.⁽¹⁾, Katakura, A.⁽¹⁾, Takagi, T.⁽¹⁾, Takano, M., Shibahara, T.⁽¹⁾, Kakizawa, T. : Clinical study of the prognosis for oral squamous cell carcinoma, J Dent Res (CD-ROM) **83**(Special Issue A), #3713, 2004.(82nd General Session & Exhibition of the IADR, Honolulu, USA) (1)口外 I
34. 菊池徹行, 高久勇一郎, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 野間弘康⁽¹⁾ : 健常日本人のオトガイ神経支配領域における感覚閾値に関する臨床的検討 - 二点識別閾検査と振動覚検査の基準値について - , 第 8 回口腔顔面神経機能学会プログラム, 9, 2004.(第 8 回口腔顔面神経機能学会, 横浜市) (1)口外 I

35. 白須賀薫⁽¹⁾, 山下優花⁽¹⁾, 田中千早⁽¹⁾, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 高木 亮⁽¹⁾, 原 宣道⁽²⁾, 山口晋一⁽¹⁾, 西堀陽平⁽²⁾, 山内智博⁽¹⁾, 高崎義人, 高木多加志⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 内山健志⁽²⁾, 野間弘康⁽¹⁾ : 下顎智歯抜歯後の舌神経知覚障害について, 第 8 回口腔顔面神経機能学会プログラム・抄録集, 11, 2004.(第 8 回口腔顔面神経機能学会, 横浜市)
(1)口外 I,(2)口外 II
36. 高崎義人 : 口唇麻痺の判定法と評価基準 - 調査集計結果を基に新しい評価基準の提案 2, SW 知覚テストにおける検査条件・評価方法の留意点 - 特に測定部位について -, 第 8 回口腔顔面神経機能学会プログラム, 13, 2004.(第 8 回口腔顔面神経機能学会プログラム, 横浜市)
37. 浜瀬真紀⁽¹⁾, 山下優花⁽¹⁾, 高崎義人, 高木多加志⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾ : 下顎枝矢状分割法術後の知覚障害の検討, 日口外会誌 49(13), 245, 2004.(第 48 回日本口腔外科学会総会, 富山市) (1)口外 I
38. 桑山真寧, 高崎義人, 柿澤 卓, 嶋 香織⁽¹⁾, 橋本貞充⁽¹⁾ : 右側耳珠前方部の皮下に生じた石灰化上皮腫の 1 例, 日口外会誌 49(13), 979, 2004.(第 48 回日本口腔外科学会総会, 富山市) (1)病理

7. 歯 科 麻 酔 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 講 師 福田 謙一 神経因性疼痛に対するアデノシン三リン酸の鎮痛作用(A01 0500 1)
助 手 笠原 正貴 安全で効率のよい低流量麻酔に用いる新しい呼吸回路の研究(A01 0500 12)
西條みのり 周術期における呼吸器感染予防対策マニュアル作成のための起炎微生物の動態検索
(A99 0500 2)

2. 成果の概要

1) 神経因性疼痛に対するアデノシン三リン酸の鎮痛作用(A01 0500 1)

アデノシン複合体であるアデノシン三リン酸を口腔顔面神経因性疼痛患者18名(帯状疱疹後神経痛 2名, 下歯槽神経損傷後の神経因性疼痛 2名, 慢性咀嚼筋痛 3名, 原因不明の舌痛 3名, 抜髄後神経因性疼痛 3名, 抜髄から抜歯に至った神経因性疼痛 5名)に, 持続静注にて応用し, その鎮痛効果を visual analogue scale によって判定した. その反応は, 9名の反応者(responder: 帯状疱疹後神経痛 1名, 抜髄後神経因性疼痛 3名, 抜髄から抜歯に至った神経因性疼痛 5名)と9名の非反応者(non-responder)に分かれた. これは, ATP 静脈内持続投与の鎮痛効果が, 有効か無効か, 症例によって明確に区別されることを示唆した. 有効であったタイプとして, 抜髄後神経因性疼痛と抜髄から抜歯に至った神経因性疼痛の8名が, 全員 responder であった. さらに, この検討で効果があったタイプの口腔顔面痛への ATP 静脈内持続投与の有効性について, その evidence を確立するため, 二重盲検法により検討した. ATP(100 μ g/kg/min で3時間)の静脈内持続投与は, 12名中11名の自発痛及び誘発痛を有意に低下させた($p < 0.0001$)のに対して, プラセボは, ほとんど変化しなかった($p > 0.05$). ATP 静脈内持続投与の鎮痛効果は, 緩徐に出現し, 投与終了後も数時間持続した. 呼吸や循環への影響は, ほとんどなかった. ATP 静脈内持続投与は, 神経因性疼痛, 特に抜髄後神経因性疼痛と抜髄から抜歯に至った神経因性疼痛症例には劇的な鎮痛効果を発揮することがわかった. 神経因性疼痛は多くの薬物に抵抗する極めて難治性疼痛だけに, アデノシン三リン酸の鎮痛効果は, 今後大いに期待できる.

ペインクリニック 24(10), 1403~1412, 2003.

ペインクリニック 25(3), 320~327, 2004.

2) 安全で効率のよい低流量麻酔に用いる新しい呼吸回路の研究(A01 0500 12)

現在の全身麻酔は高流量麻酔が主流であるが, 医療費抑制, 環境汚染の軽減の観点から, 日本麻酔学会等でも, 低流量麻酔の普及について前向きである. しかし, 低流量麻酔時には麻酔回路内で少量の新鮮ガスが, 組成の異なる比較的大量の呼気ガスにより希釈されるため, 酸素, 吸入麻酔薬ともに新鮮ガス-吸気ガス間濃度較差が生じる. つまり気化器設定濃度と実際に患者に与えられる吸入麻酔ガス濃度が一致しないため, 調節性が悪い. 過去の報告ではセボフルラン麻酔, 新鮮ガス流量 1 l/min 時, 気化器設定濃度に対する吸入セボフルラン濃度の比(I/D)は0.73であった. 予備実験で, 半閉鎖循環式回路に Mapleson D 型再呼吸式回路を組み込み, 新鮮ガス流量 1 l/min, 自発呼吸下で I/D を検討したところ, 0.8と好結果を得た. I/D が上昇することは, 気化器設定濃度と吸気ガス濃度の較差が縮小するため, すなわち効率のよい麻酔となる. 現在, 新発想の麻酔回路(半閉鎖循環式回路 + Mapleson D 型再呼吸式回路)を用い, 自発・調節呼吸下にその効率と安全性の検討を行っている.

3) 周術期における呼吸器感染予防対策マニュアル作成のための起炎微生物の動態検索(A99 0500 2)

気管挿管麻酔下で口腔・顔面手術予定の患者32例を口腔内洗浄群($n = 16$), 口腔内非洗浄群($n = 16$)に無

作為に割り付け、PCR(polymerase chain reaction)法および培養法によって病原微生物を検出した。口腔内洗浄群では術前に、電動歯ブラシ装置により自動的にポピドンヨード液を供給しながら、歯磨き、歯周組織・頬粘膜・舌のスクラブを行った。また、術後は1日2回、ポピドンヨード液によるすすぎ洗浄を行った。なお、手術後、32例全例にセファゾリン(3 g /日)を5日間投与した。まず、口腔内洗浄前32例のうがい標本から病原微生物を検出した。PCR法では肺炎球菌が87.5%、インフルエンザ菌が68.8%、緑膿菌が53.3%、*Porphyromonas gingivalis* が40.6%で検出された。一方、培養法では黄色ブドウ球菌が34.4%、MRSA が9.4%、表皮ブドウ球菌が56.3%、MRSE が15.6%で検出された。

手術前後の病原微生物の変動を測定した結果、口腔内洗浄群では、PCR法による検討で、肺炎球菌、インフルエンザ菌の有意な減少が確認された。また、培養法による検討では、黄色ブドウ球菌および表皮ブドウ球菌の有意な減少が認められた。一方口腔非洗浄群では、PCR法による検討で、肺炎球菌、インフルエンザ菌の減少は認めず、また、培養法では表皮ブドウ球菌の減少は認められたものの、緑膿菌やカンジダの検出率はむしろ増加した。今回、気管挿管麻酔例に対して、ポピドンヨード液を用いて機械的および化学的に口腔衛生処置を行ったところ、呼吸器感染症の主要原因微生物が減少することが明らかになった。

J Anesth 17(2), 84~91, 2003.

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
笠原 正貴	口腔外科手術後の神経麻痺における直線偏光近赤外線星状神経照射の有用性の検討	科学研究費・若手(B)
奥田みのり	周術期における呼吸器感染予防対策マニュアル作成のための起炎微生物の動態検索	科学研究費・若手(B)

4. 研究活動の特記すべき事項

受賞

受賞者名	年月日	賞名	テーマ	学会・団体名
笠原 正貴	2003.7.8	東京歯科大学学長奨励研究賞	Adenosine and amrinone reverse felypressin-induced depression of myocardial tissue oxygen tension in dogs	東京歯科大学
福田 謙一	2003.10.11	デンツプライ賞	歯科処置後三叉神経知覚障害発症患者への事前説明は適切か	日本歯科麻酔学会・デンツプライジャパンリミテッド

シンポジウム

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
福田 謙一	2003.6.28	口腔顔面領域の慢性疼痛に対する各種注射薬の応用	日本麻酔・薬理学会第25回学術大会	さいたま市

5. 教育講演等教育に関する業績，活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
福田 謙一	2003.9.3	齲蝕症や歯周病ではない痛みを訴える患者が来院した時の対応	中野区歯科医師会講演会	東京
福田 謙一	2003.9.22	歯科臨床におけるプロポフォルとセボフルラン/ATPの臨床応用	丸石製薬職員研修会	大阪市
福田 謙一	2003.10.8	口腔顔面痛を訴える患者への対応	富士吉田市歯科医師会講演会	富士吉田市
福田 謙一	2003.10.16	難治性口腔顔面痛の診断と治療	KO デンタル講演会	東京

共用試験等

氏 名	年月日	種 別	役 割	開催地
福田 謙一	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	運営副委員長・評価者	東京
笠原 正貴	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
西條みのり	2003.5.24	第5回水道橋病院 OSCE	予備評価者	東京
福田 謙一	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
笠原 正貴	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
西條みのり	2004.3.6	第6回水道橋病院 OSCE	進行	東京

論 文

1. Okuda,M.⁽¹⁾, Kaneko,Y.⁽¹⁾, Ichinohe,T.⁽¹⁾, Ishihara,K.⁽²⁾, Okuda,K.⁽²⁾ : Reduction of potential respiratory pathogens by oral hygienic treatment in patients undergoing endotracheal anesthesia, J Anesth **17**(2), 84 ~ 91, 2003. 原著
分子生研 (1)歯麻,(2)微生物
2. 林田真和⁽¹⁾, 福田謙一, 福永敦翁⁽²⁾, 有田英子⁽³⁾, 花岡一雄⁽³⁾ : アデノシンとアデノシン受容体, ペインクリニック **24**(10), 1403 ~ 1412, 2003. 総説 (1)東大・医科学研究所,(2)UCLA,(3)東大・医・附属病院・麻酔科・痛みセンター
3. 高北義彦, 半田俊之⁽¹⁾, 齋田菜緒子, 谷田部純子, 大野 毅, 笠原正貴, 杉山あや子, 金子 譲⁽¹⁾ : ベクロニウムの神経筋遮断効果の性差に関する検討, 日歯麻会誌 **31**(2), 137 ~ 140, 2003. 原著 (1)歯麻
4. Hayashida,M.⁽¹⁾, Sato,k.⁽¹⁾, Fukunaga,A.⁽²⁾, Fukuda,K., Sekiyama,H.⁽³⁾, Sawamura,S.⁽³⁾, Arita,H.⁽³⁾, Hanaoka,K.⁽³⁾ : Intravenous infusion of adenosine 5'-triphosphate alleviated a disabling postherpetic neuralgia, J Anesth **18**(1), 36 ~ 38, 2004. 臨床 (1)東大・医科学研究所,(2)UCLA,(3)東大・医・附属病院・麻酔・痛みセンター
5. 福田謙一, 金子 譲⁽¹⁾ : 幻歯痛の臨床, ペインクリニック **25**(3), 320 ~ 327, 2004. 総説 (1)歯麻

解 説

1. 福田謙一, 笠原正貴, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 痛みのメカニズムとその対応 4 咀嚼筋痛・顎関節痛の発生メカニズムとその対応, 歯界展望 **101**(4), 783 ~ 790, 2003. (1)歯麻
2. 笠原正貴, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 痛みのメカニズムとその対応 5 口腔粘膜・舌の異常痛の発生メカニズムとその対応, 歯界展望 **101**(5), 1073 ~ 1077, 2003. 脳科学研 (1)歯麻
3. 福田謙一, 笠原正貴, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 痛みのメカニズムとその対応 6 口腔顔面痛の実態と歯科臨床における問題点, 歯界展望 **101**(6), 1303 ~ 1309, 2003. (1)歯麻
4. 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 痛くない局所麻酔, 日歯評論 **63**(7), 189 ~ 191, 2003. (1)歯麻
5. 奥田克爾⁽¹⁾, 西條みのり : 肺炎と口腔細菌, 呼吸ケア **2**(2), 66 ~ 72, 2004. (1)微生物

単行図書

1. 金子 譲⁽¹⁾(a), 笠原正貴(a) : 著分担 :痛み 基礎・診断・治療 (a)1.5 口腔内の痛み 114 ~ 116 頁, 朝倉書店, 東京, 2003. (1)歯麻
2. 金子 譲⁽¹⁾, 福田謙一(「歯科領域の疼痛の場合は」): 著分担 :COX-2 阻害薬 Q&A (a)「歯科領域の疼痛の場合は」 77 ~ 79 頁, 医薬ジャーナル社, 大阪市, 2003. (1)歯麻
3. 金子 譲⁽¹⁾, 福田謙一: 著分担 :ペインマネジメント 痛みの評価と診療手順 (a)口腔・舌・歯の痛み 141 ~ 150 頁, 南江堂, 東京, 2004. (1)歯麻

その他

1. 福田謙一, 金子 譲⁽¹⁾: 1%プロポフォル「マルイシ」の使用経験レポート, 丸石製薬 Clinical Report 3, 2003. (1)歯麻
2. 奥田みのり⁽¹⁾: 気管挿管麻酔患者の口腔内清掃は呼吸器感染症関連微生物を減少させる, The Word on Respiration, Infections & Chemotherapy(1), 6, 2004. (1)歯麻

学会抄録

1. 福田謙一, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 術野のエピネフリン注射,リドカインとの混合が効果的, J Anesth 17(suppl), 344, 2003.(日本麻酔科学会第 50 回学術集会, 横浜市) (1)歯麻
2. Fukuda,K., Kasahara,M., Handa,T.⁽¹⁾, Muramatsu,J., Koukita,Y., Ichinohe,T.⁽¹⁾, Kaneko,Y.⁽¹⁾: Sumatriptan succinate for diagnosis of migrainous neuralgia(Toothache of Neurovascular Origin), 10th International Dental Congress on Modern Pain Control Book of Abstracts, 40, 2003.(International Federation of Dental Anesthesiology Societies 10th International Dental Congress on Modern Pain Control , Edinburgh, Scotland) (1)歯麻
3. Ichinohe,T.⁽¹⁾, Fukuda,K., Kasahara,M., Nomura,K.⁽¹⁾, Kaneko,Y.⁽¹⁾: Drug challenge test for patients with chronic Intractable orofacial pain, 10th International Dental Congress on Modern Pain Control Book of Abstracts, 41, 2003.(International Federation of Dental Anesthesiology Societies 10th International Dental Congress on Modern Pain Control , Edinburgh, Scotland) (1)歯麻
4. 大野建州⁽¹⁾, 松浦信幸⁽¹⁾, 加納美穂子⁽¹⁾, 奥田みのり⁽¹⁾, 縣 秀栄⁽¹⁾, 野村 仰⁽¹⁾, 間宮秀樹⁽¹⁾, 櫻井 学⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 2002年1月~12月の1年間に東京歯科大学千葉病院歯科麻酔科外来において麻酔科管理下に診療を行なった症例の臨床統計, 歯科学報 103(6), 542, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)歯麻
5. 福田謙一: 口腔顔面領域の慢性疼痛に対する各種注射薬の応用, 日本麻酔・薬理学会第25回学術大会プログラム/講演抄録集, 20, 2003.(日本麻酔・薬理学会第25回学術大会, さいたま市)
6. 福田謙一, 笠原正貴, 半田俊之⁽¹⁾, 村松 淳, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 幻歯痛の診断を考える, 口腔顔面痛懇談会第4回研究会プログラム, 3, 2003.(口腔顔面痛懇談会第4回研究会, 東京) (1)歯麻
7. 笠原正貴, 福田謙一, 金子 譲⁽¹⁾: 歯科患者の満足度 痛みと快適性との関係, 第20回関東臨床歯科麻酔懇話会日本歯科麻酔学会地方会抄録集, 8, 2003.(第20回関東臨床歯科麻酔懇話会日本歯科麻酔学会地方会, 東京) (1)歯麻
8. 笠原正貴, 福田謙一, 野呂明夫⁽¹⁾, 益田賢治⁽²⁾, 堀田宏巳⁽³⁾, 辻野啓一郎⁽⁴⁾, 長谷部利一⁽⁵⁾, 高野正行⁽⁶⁾, 山 満⁽⁶⁾, 島田 淳⁽⁷⁾, 青木 聡⁽²⁾, 槇石武美⁽¹⁾, 安達 康⁽³⁾, 大多和由美⁽⁴⁾, 谷田部賢一⁽⁵⁾, 柿澤 卓⁽⁶⁾, 金子 譲⁽⁸⁾: 東京歯科大学水道橋病院における外来患者の満足度調査 - 総合表価 -, 歯科学報 103(6), 65, 2003.(第 275 回東京歯科大学学会, 千葉市) (1)水病・保存科,(2)水病・総合歯科,(3)水病・補綴科,(4)水病・小児歯科,(5)水病・矯正科,(6)水病・口外科,(7)水病・スポーツ歯科,(8)歯麻

9. 塚越完子⁽¹⁾, 福田謙一 : 障害者日帰り全身麻酔下歯科治療の術後合併症の検討 日帰り困難および予定入院とした症例について , 障害者歯 24(3), 470, 2003.(第 20 回 日本障害者歯科学会および学術大会, 東京) (1)東京都豊島病院歯科口腔外科
10. 福田謙一, 服部 清⁽¹⁾, 池田正一⁽²⁾, 柿澤 卓⁽³⁾, 杉山あや子, 金子 譲⁽⁴⁾ : 著しい肥満を伴った知的障害者の日帰り外来全身麻酔経験, 障害者歯 24(3), 471, 2003.(第 20 回 日本障害者歯科学会および学術大会, 東京) (1)独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園,(2)神奈川県立こども医療センター,(3)水病・口外科,(4)歯麻
11. 笠原正貴, 福永敦翁⁽¹⁾, 福田謙一, 西條みのり, 半田俊之⁽²⁾, 高北義彦⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾ : 再呼吸式 Meplerson D を組み込んだ循環式 F 回路による 1~2 l/min の低流量麻酔, 日歯麻会誌 31(4), 81, 2003.(第 31 回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 倉敷市) (1)UCLA Harbor Medical Center,(2)歯麻
12. 西條みのり, 伊藤英美子⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 歯科局所麻酔用バイブレーションアタッチメントによる除痛効果の検討, 日歯麻会誌 31(4), 432, 2003.(第 31 回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 倉敷市) (1)歯麻
13. 保坂譲治⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 高北義彦⁽¹⁾, 半田俊之⁽¹⁾, 笠原正貴⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 杉山あや子⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : プロポフォル麻酔下におけるベクロニウムの神経筋遮断作用への笑気の影響, 日歯麻会誌 31(4), 460, 2003.(第 31 回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 倉敷市) (1)歯麻
14. 福田謙一⁽¹⁾, 福永敦翁⁽²⁾, 笠原正貴⁽¹⁾, 高北義彦⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : アデノシン三リン酸(ATP)持続静脈内投与は, 抜歯後神経因性疼痛に著効する, 日歯麻会誌 31(4), 464, 2003.(第 31 回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 倉敷市) (1)歯麻,(2)UCLA Harbor Medical Center
15. 福田謙一⁽¹⁾, 福永敦翁⁽²⁾, 笠原正貴⁽¹⁾, 高北義彦⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 口腔顔面領域難治性疼痛に対するアデノシン三リン酸(ATP)持続静脈内投与の鎮痛効果, 日歯麻会誌 31(4), 464, 2003.(第 31 回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 倉敷市) (1)歯麻,(2)UCLA Harbor Medical Center
16. 半田俊之⁽¹⁾, 福永敦翁⁽²⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 術中アデノシン三リン酸持続静脈内投与は術後痛に有効である, 日歯麻会誌 31(4), 465, 2003.(第 31 回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 倉敷市) (1)歯麻,(2)UCLA Harbor Medical Center
17. 西條みのり, 福田謙一⁽¹⁾, 笠原正貴⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 歯科用局所麻酔に添加されたパラオキシ安息香酸メチルの抗菌性の検討, 日歯麻会誌 31(4), 487, 2003.(第 31 回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 倉敷市) (1)歯麻
18. 笠原正貴⁽¹⁾ : アデノシンとアムリノンはイヌにおけるフェリプレシンの心筋組織酸素分圧低下作用を改善する, 歯科学報 103(10), 800, 2003.(第 276 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)歯麻
19. Handa,T.⁽¹⁾, Fukuda,K., Ichinohe,T.⁽¹⁾, Kaneko,Y.⁽¹⁾, Fukunaga,A.⁽¹⁾ : Adenosine triphosphate infusion for postoperative pain relief after oral surgery, J Dent Res (CD-ROM) 83(Special Issue A), #2110,2004. (82nd General Session & Exhibition of the IADR, Honolulu, USA) CD-ROM (1)歯麻
20. Fukuda,K., Kasahara,M.⁽¹⁾, Handa,T.⁽¹⁾, Ichinohe,T.⁽¹⁾, Kaneko,Y.⁽¹⁾ : Stellate ganglion block for masticatory pain relief, J Dent Res (CD-ROM) 83(Special Issue A), #2109, 2004. (82nd General Session & Exhibition of the IADR, Honolulu, USA) CD-ROM (1)歯麻

8. スポーツ歯科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講師 島田 淳 顎関節症と全身状態との関連について(A00 0790 6)

病院助手 小島 一郎 ガム咀嚼が全身運動能力に及ぼす影響(A00 0790 7)

2. 成果の概要

1) スポーツ選手の顎関節症と運動パフォーマンスについて

コンタクトスポーツ選手の中には強いクレンチングや顎顔面領域への過度の衝撃、あるいは不適合なマウスガードを装着することによるいわゆる「顎関節症」を発症する者が多く見られる。外傷性の顎関節症状は骨折等が無ければ症状の消退も比較的早く軽症で済むが、近年急増しているのが不適合なマウスガード装着による顎関節症である。この場合選手自らが調整する市販のマウスガードを装着しているケースが殆どで、適合性が悪く顎の偏位が見られたりしっかり咬合できなかつたりするために発症するものと考えられ、選手自身はこの原因に気づかず、徐々に競技の成績を落として行くことも多い。このようなスポーツ選手に顎関節症の初期治療を行い、その後適切なマウスガードを調製することによってパフォーマンスを改善させることができ、治療前後の評価を重心動揺や ABR 等の様々な視点から評価することによって顎関節の状態や咬合状態とスポーツパフォーマンスがどのように関連しているのか評価している。

論 文

1. Takeda, T.⁽¹⁾, Ishigami, K.⁽¹⁾, Kawamura, S.⁽¹⁾, Nakajima, K.⁽¹⁾, Shimada, A. : The influence of impact object characteristics on impact force and force absorption by mouthguard material , Dent Traumatol **20**(1), 12 ~ 20, 2004. 原著 A00 0790 2 (1)スポーツ歯
2. Takeda, T.⁽¹⁾, Ishigami, K.⁽¹⁾, Handa, J.⁽¹⁾, Nakajima, K.⁽¹⁾, Shimada, A., Ogawa, T.⁽¹⁾ : The influence of the sensor type on measured impact absorption of mouthguard material, Dent Traumatol **20**(1), 29 ~ 35, 2004. 原著 A00 0790 2 (1)スポーツ歯

学会抄録

1. 小川 透⁽¹⁾, 川村慎太郎⁽¹⁾, 中島一憲⁽¹⁾, 半田 潤⁽¹⁾, 澁澤真美⁽¹⁾, 島田 淳, 武田友孝⁽¹⁾, 石上恵一⁽¹⁾ : マウスガードの前歯部咬合接触が安全性に及ぼす影響-上顎前歯における直接外力に対する効果-, 日補綴歯会誌 **47**(109 回特別号), 145, 2003.(第 109 回日本補綴歯科学会, 東京) A00 0790 8 (1)スポーツ歯
2. Ogawa, T.⁽¹⁾, Shibusawa, M.⁽¹⁾, Kawamura, S.⁽¹⁾, Kurokawa, K.⁽¹⁾, Naito, K.⁽¹⁾, Handa, J.⁽¹⁾, Nakajima, K.⁽¹⁾, Shimada, A., Hoshina, S.⁽¹⁾, Takeda, T.⁽¹⁾, Ishigami, K.⁽¹⁾ : Survey for sports-related dental injury and mouthguard in the adult rugby player , The 3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Trauma Program, 28, 2003. (The 3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Tranma, Kyoto, Japan) A00 0790 8 (1)スポーツ歯
3. Nakajima, K.⁽¹⁾, Handa, J.⁽¹⁾, Shibusawa, M.⁽¹⁾, Kojima, I., Kiyokawa, Y., Hasegawa, E., Shimada, A., Takeda, T.⁽¹⁾, Ishigami, K.⁽¹⁾ : Manufacture of improved sufficient occulusal mauthguard as a single-layer type, The 3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Trauma Program, 35, 2003.(The 3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Tranma, Kyoto, Japan) A98 0508 2 (1)スポーツ歯
4. Kawamura, S.⁽¹⁾, Takeda, T.⁽¹⁾, Kurokawa, K.⁽¹⁾, Naito, K.⁽¹⁾, Handa, J.⁽¹⁾, Hoshina, S.⁽¹⁾, Maeda, M.⁽¹⁾, Ogawa, T.⁽¹⁾, Nakajima, K.⁽¹⁾, Shimada, A., Ootsu, K., Ishigami, K.⁽¹⁾ : Study on shock absorbency of newly developed mouthguards materials in Japan, The 3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Trauma Program, 36, 2003.(The3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Tranma, Kyoto, Japan) A00 0790 12 (1)スポーツ歯
5. Handa, J.⁽¹⁾, Takeda, T.⁽¹⁾, Nara, K.⁽¹⁾, Shibusawa, M.⁽¹⁾, Kawamura, S.⁽¹⁾, Ogawa, T.⁽¹⁾, Nakajima, K.⁽¹⁾, Shimada, A., Ishigami, K.⁽¹⁾ : Survey for unexpected influence of trader made mouthguards, The 3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Trauma Program, 37, 2003.(The3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Tranma, Kyoto, Japan) A00 0790 11 (1)スポーツ歯
6. Nara, K.⁽¹⁾, Takeda, T.⁽¹⁾, Kawamura, S.⁽¹⁾, Shibusawa, M.⁽¹⁾, Kurokawa, K.⁽¹⁾, Naito, K.⁽¹⁾, Maeda, M.⁽¹⁾, Handa, J.⁽¹⁾, Ogawa, T.⁽¹⁾, Nakajima, K.⁽¹⁾, Shimada, A., Nukaga, Y.⁽¹⁾, Ishigami, K.⁽¹⁾ : Study on the impact force in each sport, The 3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Trauma Program, 38, 2003.(The3rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Tranma, Kyoto, Japan) (1)スポーツ歯

7. Takeda,T.⁽¹⁾, Handa,J.⁽¹⁾, Shibusawa,M.⁽¹⁾, Ogawa,T.⁽¹⁾, Nakajima,K.⁽¹⁾, Kawamura,S.⁽¹⁾, Shimada,A., Ishigami,K.⁽¹⁾ :
Why the high injury prevention effect could be expected in the Mouthguard, The 91rd FDI Annual World Dental
Congress Final Program, 77, 2003.(The 91rd FDI Annual World Dental Congress, Sydney,Australia) A00 0790 2
(1)スポーツ歯
8. 小川 透⁽¹⁾, 川村慎太郎⁽¹⁾, 中島一憲⁽¹⁾, 半田 潤⁽¹⁾, 澁澤真美⁽¹⁾, 保科早苗⁽¹⁾, 奈良和彦⁽¹⁾, 黒川勝英⁽¹⁾,
内藤 薫⁽¹⁾, 島田 淳, 武田友孝⁽¹⁾, 石上恵一⁽¹⁾ : マウスガードの前歯部咬合接触が安全性に及ぼす影響
(その 2)-上顎前歯における直接外力に対する効果-, 歯科学報 **103**(6), 56, 2003.(第 275 回 東京歯科大学学会
例会, 千葉市) A00 0790 8 (1)スポーツ歯
9. 笠原正貴⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 益田賢治⁽³⁾, 堀田宏巳⁽⁴⁾, 辻野啓一郎⁽⁵⁾, 長谷部利一⁽⁶⁾, 高野正行⁽⁷⁾,
山 満⁽⁷⁾, 島田 淳, 青木 聡⁽³⁾, 槇石武美⁽²⁾, 安達 康⁽⁴⁾, 大多和由美⁽⁵⁾, 谷田部賢一⁽⁶⁾, 柿澤 卓⁽⁷⁾,金子 譲⁽⁸⁾ :
東京歯科大学水道橋病院における外来患者の満足度調査-総合評価-, 歯科学報 **103**(6), 65, 2003.(第 275 回
東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・麻酔科,(2)水病・保存科,(3)水病・総合歯科,(4)水病・補綴科,(5)水病・小児歯科,
(6)水病・矯正科,(7)水病・口外科,(8)歯麻
10. 中島一憲⁽¹⁾, 小川 透⁽¹⁾, 川村慎太郎⁽¹⁾, 半田 潤⁽¹⁾, 澁澤真美⁽¹⁾, 黒川勝英⁽¹⁾, 内藤薫⁽¹⁾, 島田 淳,武田友孝⁽¹⁾,
石上恵一⁽¹⁾ : マウスガードの前歯部咬合接触が安全性に及ぼす影響-咬合力の影響-, 歯科学報 **103**(10), 49,
2003.(第 276 回 東京歯科大学学会総会, 千葉市) A98 0508 2 (1)スポーツ歯

9. 口腔インプラント科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講師	関根 秀志	歯牙への被圧状態に関わる中枢の活動(HRC 3 B08) 骨結合インプラントの基礎的臨床的研究
助手	田口 達夫	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究

2. 成果の概要

1) 歯牙への被圧状態に関わる中枢の活動(HRC 3 B08)

本研究の目的は、歯牙への被圧状態の認識に関わる中枢の活動を把握し、歯根膜受圧感覚情報の意義を解明することである。これまで上顎中切歯、上顎犬歯ならびに下顎中切歯への触覚刺激に伴う脳磁場計測を行い、歯根膜受圧感覚の脳皮質上の応答を観察した。本年度は、浸潤麻酔により歯根膜受圧感覚情報を欠落させた際の中枢応答の観察を試みた。

2) 歯科インプラント上部構造の力学特性の解明

米国ワシントン大学補綴学講座へ海外出張において、インプラント上部構造の装着に関わる力学特性について調査を行った。現在データ解析中であり、専門誌への投稿を検討している。

3) 骨結合インプラントの基礎的臨床的研究

インプラント埋入時の手技に関わる臨床指針を明らかにすることを目的とし、術前診断における治療機器の作業環境の把握するために、術前ドリリングシュミレーションを行うことの有用性について検討し、報告した。

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
関根 秀志	歯科インプラント上部構造の力学特性の解明	ワシントン大学歯学部補綴学講座	米国ワシントン州シアトル	Dr. Jeffrey E. Rubenstein

学会抄録

1. 関根秀志, 荒瀧友彦⁽¹⁾, 嶋村一郎⁽¹⁾, 岸 正孝⁽¹⁾, 渋川義幸⁽²⁾, 鈴木 隆⁽²⁾ : 歯牙への被圧状態の認識に関わる中枢の活動, 平成 15 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 39~40, 2004.(平成 15 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) 脳科学研 (1)補綴 III,(2)生理
2. 荒瀧友彦⁽¹⁾, 井上敬介⁽¹⁾, 田口達夫, 宮下有恒⁽¹⁾, 森下亜矢子⁽¹⁾, 野村貴生⁽¹⁾, 鈴木浩樹⁽¹⁾, 安達康⁽¹⁾, 岸 正孝⁽¹⁾ : 術前診断における治療機器の作業環境の把握 - 術前ドリリングシュミレーションの有用性について -, 日口腔インプラント会誌 17(2), 256, 2004.(日本口腔インプラント学会第 23 回関東甲信越支部会, 東京) (1)補綴 III

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	ビッセン宮島弘子	固視像および瞳孔径観察可能なビデオ pupillometer の開発(A01 0791 2)
助手	鈴木 高佳	LASIK 後の iron line の発生率および共焦点生体顕微鏡像による発生部位の検討
	中村 匡志	PreVue レンズの有用性

2. 成果の概要

1) 固視像および瞳孔径観察可能なビデオ pupillometer の開発(A01 0791 2)

白内障手術や屈折矯正手術後の視機能を測定する際、瞳孔径の影響を十分検討する必要がある。老視治療への関心が高まり、とくにこれらの手術後の近方視力と瞳孔径、さらに波面収差が注目されている。従来の瞳孔径測定装置では測定できなかった、固視像と瞳孔状態を同時に観察可能なポータブルビデオ pupillometer を用いて、瞳孔径と視機能、特に近方視力との関係を検討する。実際には、白内障手術や屈折矯正手術後、遠方および近方視力を測定し、今回は連続測定可能なモードを用いポータブルビデオ pupillometer で瞳孔径を記録する。特に近方視力も良好な例においては、瞳孔径測定に加え、波面収差、とくに高次収差の影響を検討する。

2) LASIK 後の iron line の発生率および共焦点生体顕微鏡像による発生部位の検討

LASIK 後の角膜 iron line が近年報告されているが、発生機序、発生原因については未だ解明されていない。当院で行った LASIK 後に、角膜 iron line 発生の有無を裂隙灯顕微鏡にて観察し、その部位と形態を記録し、iron line がみられた症例に関しては共焦点生体顕微鏡による観察を試みる。得られた結果からその発生機序についての考察を行う。

3) PreVue レンズの有用性

wavefront-guided LASIK 後の見え方を術前に疑似体験できるレンズ、PreVue レンズを用いその有用性を検討した。当院で wavefront-guided LASIK を行った患者さんに、術前に PreVue レンズを装着してもらい、視力、またアンケートを行い術後の見え方と比較した。結果は術後の見え方のほうが PreVue レンズの見え方よりも良好であったが、見え方はかなり似ており有用性が高かった。現在は LASIK 後不正乱視の症例の PreVue レンズの有用性を同様に検討している。

3. 研究活動の特記すべき事項

オーガナイザー

オーガナイザー	年月日	演 題	学 会 名	開催地
ビッセン宮島弘子	2002. 6. 23	これからの眼内レンズ手術	第41回日本白内障学会・ 第17回日本眼内レンズ 屈折手術学会総会	東京
ビッセン宮島弘子	2002. 9. 27	屈折矯正手術	第56回日本臨床眼科学会	盛岡市
ビッセン宮島弘子	2003. 1. 31	Wave front technology up- date	第26回日本眼科手術学会	京都市
ビッセン宮島弘子	2003. 1. 31	角膜・屈折矯正手術	第26回日本眼科手術学会	京都市
ビッセン宮島弘子	2003. 2. 1	屈折矯正手術最前線	第26回日本眼科手術学会	広島市

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演 題	学 会 名	開催地
ビッセン宮島弘子	2003. 1. 31	マイクロケラトームの使い方	第26回日本眼科手術学会	広島市

学会招待講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2002. 5. 17	最新のレーザー角膜治療	慶應義塾大学工学会	東京

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
ピッセン宮島弘子	2002.6.2	The learning curve in using the BD K-3000 Microkeratome	BD Ophthalmic systems speakers forum	Philadelphia, U. S. A.
ピッセン宮島弘子	2002.6.21	「打倒! 内皮障害」術中保護対策	第17回日本眼内レンズ屈折手術学会ランチョンセミナー	東京
ピッセン宮島弘子	2002.8.10	眼にやさしい白内障手術	第2回眼科手術友の会プログラム	浜松市
ピッセン宮島弘子	2002.10.6	アクリソフシングルピースとスリーピースの比較	患者さんの為のAdvanced Phaco	岡山市
ピッセン宮島弘子	2002.10.21	LASIK for Small Eyes	BD Ophthalmic systems speakers forum	Orland, U. S. A.
ピッセン宮島弘子	2002.11.6	屈折矯正の最新事情(様々な屈折矯正法とメリット, デメリット)	第11回シードセミナー	東京
ピッセン宮島弘子	2002.11.15	LASIKの最近の動向	第68回日本中部眼科学会ランチョンセミナー	大阪市
ピッセン宮島弘子	2002.11.19	最近の白内障手術と屈折矯正レーザー手術	練馬区歯科医師会学術講演会	東京
ピッセン宮島弘子	2002.11.30	LASIKの実際	第10回霧島眼科研鑽会	都城市
ピッセン宮島弘子	2003.2.2	マルチフォーカル IOL による老眼治療	第5回 ISQOV Meeting	京都市
ピッセン宮島弘子	2003.2.8	白内障手術と屈折矯正手術今後の動向	宮崎県眼科医会講習会	宮崎市
ピッセン宮島弘子	2003.2.9	患者さんにやさしい白内障手術, 屈折矯正手術を求めて	宮崎県眼科医会従業員上級講習会	宮崎郡清武町
ピッセン宮島弘子	2003.2.26	最近の白内障手術と屈折矯正レーザー手術	東京歯科大学同窓会杉並支部学術講習会	東京
ピッセン宮島弘子	2003.3.1	視機能・屈折矯正手術	眼科診療ライブ・アップデートセミナー	京都市
ピッセン宮島弘子	2003.3.22	LASIK アップデート	眼科トピックス勉強会	名古屋市
ピッセン宮島弘子	2003.3.25	エキシマレーザー近視矯正術	多野藤岡医師会	藤岡市